

(様式第10)

帝大病院 24-748号
令和6年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人帝京大学
理事長 冲永 佳史

帝京大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
氏名	学校法人 帝京大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

帝京大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1
電話(03)3964-1211(代)

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科		有					
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5脳神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							

- 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	緩和ケア内科	2	腫瘍内科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47				1,021	1,068

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	572	33	574.2	看護補助者	10	診療エックス線技師	
歯科医師	17	3	17.1	理学療法士	27	臨床検査 臨床検査技師 79 衛生検査技師 その他	
薬剤師	79	0.525	79	作業療法士	10		
保健師				視能訓練士	11		
助産師	40		40	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	
看護師	910	11.7	921.7	臨床工学士	22	医療社会事業従事者	
准看護師				栄養士		その他の技術員	
歯科衛生士	6		6	歯科技工士		事務職員	171
管理栄養士	10		10	診療放射線技師	51	その他の職員	15

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 (注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	67	眼科専門医	8
外科専門医	40	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	7	放射線科専門医	15
小児科専門医	20	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	15	整形外科専門医	34
泌尿器科専門医	4	麻酔科専門医	29
産婦人科専門医	14	救急科専門医	19
		合計	297

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 (注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (澤村 成史) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

別紙 1 参照

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	645.7 人	2.1 人	647.8 人
1日当たり平均外来患者数	1425.7 人	46.6 人	1,472.3 人
1日当たり平均調剤数	1,486.6		剤
必要医師数	152		人
必要歯科医師数	1		人
必要薬剤師数	19		人
必要(准)看護師数	377		人

1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数			
集中治療室	1,504.53 m ²		60 床	心電計	有	
				心細動除去装置	有	
				ペースメーカー	有	
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	178.86 m ²	病床数	12 床	
	[移動式の場合]	台数	2 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	30.81 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	19.29 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 低温恒温器,中央実験台,キューリーメータ			
細菌検査室	140.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査装置,生物顕微鏡,安全キャビネット			
病理検査室	264.05 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ミクローム,自動固定包埋装置,顕微鏡			
病理解剖室	74.58 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台,臓器撮影台,臓器固定水洗槽			
研究室	3,067.52 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンパー等			
講義室	488.9 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員	260 人
図書室	3,020.73 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	235,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.3	%	逆紹介率	66.8	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		20,971		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		18,751		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,657		人
	D: 初診の患者の数		28,084		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国保組合議員 脳神経内科医師	○	・医療に係る安全管理に関する識見を有する者 ・脳神経内科医師として医療に造詣が深いため	無	1
秦 奈峰子	太田・佐藤法律事務所 弁護士・医師		・医療に係る安全管理及び法律に関する識見を有する者 ・医師と弁護士の資格を持ち医療と法律双方を理解されているため	無	1
橋本 恵正	当院の患者代表		・医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 ・当院に通院歴のある患者を代表して	無	2
河野 博隆	帝京大学医学部長		・当院での臨床経験がある中立的な評価ができる立場にある者 ・医学部を統括する者として	有	3

- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページに公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 2018年から保険承認された直腸癌、2022年から保険承認された結腸癌に対してロボット支援手術を施行しております。合計40名の患者に対して施行しました。			
医療技術名	重症喘息に対する生物学的製剤治療	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 重症喘息に対して、5種の生物学的製剤が使用可能であるが、その適切な選択には、炎症の表現型の確定、同時に適応を有する鼻疾患等のスクリーニング、経済的配慮、適切な効果判定等の専門的判断が必要である。当科は、十分な評価システムとアレルギー専門医、呼吸器専門医を擁しており、適切な生物学的製剤治療に貢献している。			
医療技術名	超音波ガイド下経気管支針生検	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 肺癌の適切な治療方針決定には、縦隔リンパ節への腫瘍進展を適切に評価する必要がある。また、サルコイドーシス、悪性リンパ腫等では、縦隔リンパ節生検が適切な診断に必要である。当科では、気管支鏡を用いた超音波ガイド下経気管支針生検で、血管穿刺を回避しながら、安全に検査を施行し、正確な診断を行っている。			
医療技術名	リンパ管塞栓術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 “乳び胸水を代表とするリンパ漏に対して、これまで直視下に胸管結紮を行ってきたが、血液と異なり、リンパ液は、透明であり治療成績は十分なものではない。我々は、リンパ路を造影剤で描出し直接胸管を穿刺し、経皮的に塞栓術を行った。これまでは、外傷性乳糜胸水や、特発性乳糜胸水症例に対して実施していたが、今年度は新たに乳糜心嚢液症例に対して実施し良好な経過を辿っている。”			
医療技術名	Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunt (TIPS)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 難治性腹水や、内視鏡治療やIVRでの治療が不応の食道胃静脈瘤に対して、下大静脈と門脈系を直接短絡させる手技。技術的にも難しいことから、国内で技術的にも、実施可能施設が乏しく帝京大学で施行した。尚、国内で定期的に行っている施設は本校のみである。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	135

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	別紙 2 参照		56		
2			57		
3			58		
4			59		
5			60		
6			61		
7			62		
8			63		
9			64		
10			65		
11			66		
12			67		
13			68		
14			69		
15			70		
16			71		
17			72		
18			73		
19			74		
20			75		
21			76		
22			77		
23			78		
24			79		
25			80		
26			81		
27			82		
28			83		
29			84		
30			85		
31			86		
32			87		
33			88		
34			89		
35			90		
36			91		
37			92		
38			93		
39			94		
40			95		
41			96		
42			97		
43			98		
44			99		
45			100		
46			101		
47			102		
48			103		
49			104		
50			105		
51			106		
52			107		
53			108		
54			109		
55			110		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	103
合計患者数(人)	2,117

指定難病の診療実績 2023年度

疾病番号	疾病名	患者実数
1	球脊髄性筋萎縮症	8
2	筋萎縮性側索硬化症	27
3	脊髄性筋萎縮症	4
5	進行性核上性麻痺	6
6	パーキンソン病	78
7	大脳皮質基底核変性症	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1
11	重症筋無力症	121
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	88
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	36
15	封入体筋炎	4
17	多系統萎縮症	4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	30
19	ライソゾーム病	4
20	副腎白質ジストロフィー	1
21	ミトコンドリア病	4
22	もやもや病	17
28	全身性アミロイドーシス	11
34	神経線維腫症	6
35	天疱瘡	10
37	膿疱性乾癬(汎発型)	27
40	高安動脈炎	7
41	巨細胞性動脈炎	12
42	結節性多発動脈炎	6
43	顕微鏡的多発血管炎	32
44	多発血管炎性肉芽腫症	13
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	37
46	悪性関節リウマチ	7
47	バージャー病	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5
49	全身性エリテマトーデス	230
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	75
51	全身性強皮症	51
52	混合性結合組織病	19
53	シェーグレン症候群	35
54	成人スチル病	21
55	再発性多発軟骨炎	4
56	ベーチェット病	142
57	特発性拡張型心筋症	19
58	肥大型心筋症	4
60	再生不良性貧血	19
61	自己免疫性溶血性貧血	4
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	7
63	特発性血小板減少性紫斑病	39
65	原発性免疫不全症候群	7
66	IgA腎症	23
67	多発性嚢胞腎	24

指定難病の診療実績 2023年度

疾病番号	疾病名	患者実数
68	黄色靭帯骨化症	6
69	後縦靭帯骨化症	19
70	広範脊柱管狭窄症	2
71	特発性大腿骨頭壊死症	11
72	下垂体性ADH分泌異常症	11
73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
75	クッシング病	2
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12
78	下垂体前葉機能低下症	38
84	サルコイドーシス	34
85	特発性間質性肺炎	27
86	肺動脈性肺高血圧症	3
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
89	リンパ脈管筋腫症	3
90	網膜色素変性症	18
91	バッド・キアリ症候群	5
93	原発性胆汁性肝硬変	42
94	原発性硬化性胆管炎	9
95	自己免疫性肝炎	26
96	クローン病	106
97	潰瘍性大腸炎	212
98	好酸球性消化管疾患	3
107	若年性特発性関節炎	4
111	先天性ミオパチー	3
113	筋ジストロフィー	11
119	アイザックス症候群	1
138	神経細胞移動異常症	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
158	結節性硬化症	4
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	23
167	マルファン症候群	1
168	エーラス・ダンロス症候群	1
171	ウィルソン病	3
193	プフダー・ウィリ症候群	1
216	両大血管右室起始症	1
220	急速進行性糸球体腎炎	5
221	抗糸球体基底膜腎炎	1
222	一次性ネフローゼ症候群	36
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
224	紫斑病性腎炎	4
227	オスラー病	9
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
235	副甲状腺機能低下症	1
257	肝型糖原病	1
261	タンジール病	1
266	家族性地中海熱	2

指定難病の診療実績 2023年度

疾病番号	疾病名	患者実数
271	強直性脊椎炎	11
281	クリッペル・トレノネ・ウェーバー症候群	1
283	後天性赤芽球癆	1
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
296	胆道閉鎖症	1
300	IgG 4関連疾患	9
306	好酸球性副鼻腔炎	40
310	先天異常症候群	1
331	特発性多中心性キャッスルマン病	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙 3 参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙 4 参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

2024年10月1日現在

●基本診療料の施設基準

- ・特定機能病院入院基本料（一般：7対1、精神：13対1）
- ・臨床研修病院入院診療加算
- ・医療DX推進体制整備加算
- ・救急医療管理加算
- ・超急性期脳卒中加算
- ・妊産婦緊急搬送入院加算
- ・診療録管理体制加算2
- ・医師事務作業補助体制加算1（40対1）
- ・急性期看護補助体制加算（50対1）
- ・看護職員夜間配置加算（12対1配置加算2）
- ・療養環境加算
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・無菌治療室管理加算1・2
- ・緩和ケア診療加算
- ・精神科身体合併症管理加算
- ・精神科リエゾンチーム加算
- ・がん診療連携拠点病院加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算1
- ・感染対策向上加算1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・術後疼痛管理チーム加算
- ・後発医薬品使用体制加算2
- ・病棟薬剤業務実施加算1・2
- ・データ提出加算2のイ
- ・入退院支援加算1
- ・せん妄ハイリスク患者ケア加算
- ・精神疾患診療体制加算
- ・精神科急性期医師配置加算2のイ
- ・地域医療体制確保加算
- ・救命救急入院料1・4
- ・特定集中治療室管理料3・4
- ・総合周産期特定集中治療室管理料
- ・新生児治療回復室入院医療管理料

- ・小児入院医療管理料 2
- ・地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・歯科外来診療医療安全対策加算 2
- ・歯科外来診療感染対策加算 3

●特掲診療料の施設基準

- ・外来栄養食事指導料の注2、注3に規定する基準
- ・心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行期加算）
- ・心臓ペースメーカー指導管理料（注5に規定する遠隔モニタリング加算）
- ・高度難聴指導管理料
- ・慢性維持透析患者外来医学管理料の腎代替療法実績加算
- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算
- ・がん患者指導管理料ロ・ハ・ニ
- ・外来緩和ケア管理料
- ・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・婦人科特定疾患治療管理料
- ・腎代替療法指導管理料
- ・一般不妊治療管理料
- ・生殖補助医療管理料1
- ・二次性骨折予防継続管理料1・3
- ・下肢創傷処置管理料
- ・慢性腎臓病透析予防指導管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・外来放射線照射診療料
- ・外来腫瘍化学療法診療料1
- ・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
- ・連携充実加算
- ・ニコチン依存症管理料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・がん治療連携管理料1
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料1・2・(歯科)
- ・歯科治療時医療管理料
- ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算
- ・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
- ・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
- ・造血器腫瘍遺伝子検査
- ・遺伝学的検査
- ・染色体検査の注2に規定する基準

- ・骨髄微小残存病変量測定
- ・BRCA 1 / 2 遺伝子検査
- ・がんゲノムプロファイリング検査
- ・先天性代謝異常症検査
- ・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（SARS-CoV-2 核酸検出を含まないもの）
- ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）
- ・検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）
- ・国際標準検査管理加算
- ・遺伝カウンセリング加算
- ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- ・植込型心電図検査
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・胎児心エコー法
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・単繊維筋電図
- ・脳波検査判断料 1
- ・神経学的検査
- ・補聴器適合検査
- ・黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図
- ・ロービジョン検査判断料
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・内服・点滴誘発試験
- ・経頸静脈的肝生検
- ・経気管支凍結生検法
- ・センチネルリンパ節生検（片側）
- ・前立腺針生検法（MR I 撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
- ・画像診断管理加算 1・4
- ・ポジトロン断層撮影（アミロイド PET イメージング剤を用いた場合に限る。）
- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影（アミロイド PET イメージング剤を用いた場合を除く。）
- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影（アミロイド PET イメージング剤を用いた場合に限る。）
- ・CT 撮影及び MRI 撮影
- ・冠動脈 CT 撮影加算
- ・血流予備量比コンピューター断層撮影
- ・外傷全身 CT 加算
- ・大腸 CT 撮影加算
- ・心臓 MRI 撮影加算
- ・乳房 MRI 撮影加算

- ・頭部 MRI 撮影加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来化学療法加算 1
- ・無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・摂食機能療法の注 3 に規定する摂食嚥下機能回復体制加算 2
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料 2
- ・通院・在宅精神療法の療養生活継続支援加算
- ・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
- ・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
- ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- ・医療保護入院等診療料
- ・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
- ・多血小板血漿処置
- ・硬膜外自家血注入
- ・エタノールの局所注入（甲状腺）
- ・人工腎臓（慢性維持透析を行った場合 1）
- ・導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス療法
- ・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- ・一酸化窒素吸入療法（新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するものに限る。）
- ・口腔粘膜処置
- ・CAD/CAM 冠及び CAD/CAM インレー
- ・皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
- ・皮膚移植術（死体）
- ・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- ・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
- ・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
- ・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
- ・骨移植術（軟骨移植術含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- ・人工股関節置換術（手術支援装置を用いるもの）
- ・後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
- ・椎間板内酵素注入療法

- ・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- ・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
- ・角結膜悪性腫瘍切除手術
- ・角膜移植術（内皮移植加算）
- ・羊膜移植術
- ・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- ・緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- ・緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
- ・網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
- ・網膜再建術
- ・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
- ・植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- ・乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
- ・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- ・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- ・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
- ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
- ・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、脛腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- ・胸腔鏡下弁形成術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

- ・経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
- ・経皮的僧帽弁クリップ術
- ・不整脈手術 左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）、（経カテーテル的手術によるもの）
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
- ・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
- ・補助人工心臓
- ・経皮的大動脈遮断術
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（後腹膜）
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
- ・ダメージコントロール手術
- ・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
- ・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- ・腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併設するもの）
- ・腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
- ・腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
- ・腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- ・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
- ・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- ・体外衝撃波胆石破砕術
- ・腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）、（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、2区域切除及び3区域切除以上のもの）
- ・体外衝撃波膵石破砕術（一連につき）
- ・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・内視鏡的小腸ポリープ切除術
- ・腹腔鏡下副腎摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術（褐色細胞腫）（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
- ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・生体腎移植術
- ・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・精巣温存手術
- ・膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
- ・精巣内精子採取術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
- ・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
- ・胎児胸腔・羊水腔シャント術（一連につき）
- ・体外式膜型人工肺管理料
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
- ・輸血管理料Ⅰ、輸血適正使用加算、貯血式自己血輸血管理体制加算
- ・コーディネート体制充実加算
- ・自己生体組織接着剤作成術
- ・自己クリオプレシピテート作製術（用手法）及び同種クリオプレシピテート作製術

- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・歯周組織再生誘導手術
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・レーザー機器加算
- ・麻酔管理料（Ⅰ）・（Ⅱ）
- ・周術期薬剤管理加算
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・1回線量増加加算（全乳房照射・前立腺照射）
- ・強度変調放射線治療（IMRT）
- ・画像誘導放射線治療加算
- ・体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算（体外照射呼吸性移動対策加算・定位放射線治療・その他のもの）
- ・画像誘導密封小線源治療加算
- ・保険医療機関間の連携による病理診断
- ・病理診断管理加算 2
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・口腔病理診断管理加算 2
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・医療情報取得加算
- ・看護職員処遇改善評価料
- ・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
- ・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
- ・入院ベースアップ評価料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
別紙 5 参照				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究	有賀悦子	緩和医療学講座	¥9,009,000	補 厚生労働省
終末期医療から脳死下・心停止後臓器提供に関わる医療の評価に関する研究	伊藤香	外科学講座	¥230,000	補 厚生労働省
革新的新規デバイスによる肺癌患者の血液中循環腫瘍細胞の同定	坂尾幸則	外科学講座	¥800,000	補 文部科学省
免疫チェックポイント阻害薬の治療効果に影響を及ぼす口腔内常在細菌叢の解明	佐竹杏奈	外科学講座	¥780,000	補 文部科学省
切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	佐野圭二	外科学講座	¥390,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
独自に発見した全く新しいphenotypeのNK様細胞を用いた養子免疫技術の実用化開発:第I相医師主導治験	深川剛生	外科学講座	¥1,300,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
メタボローム解析を用いた cdk 4/6阻害剤の効果予測法の確立	坂尾幸則	外科学講座	¥1,430,000	補 文部科学省
軟骨再生を活用した気管支断端治癒システムの開発	塚崇	外科学講座	¥1,430,000	補 文部科学省
軟骨再生を活用した気管支断端治癒システムの開発	塚崇	外科学講座	¥650,000	補 文部科学省
in vivo遺伝子導入による軟骨再生医療への展開	山岡尚世	外科学講座	¥4,290,000	補 日本学術振興会
5-アミノレブリン酸を用いた肺悪性腫瘍検出システムの最適化	山内良兼	外科学講座	¥1,690,000	補 文部科学省
メタボローム解析を用いた cdk 4/6阻害剤の効果予測法の確立	神野浩光	外科学講座	¥1,430,000	補 文部科学省
HER2陽性及び低発現乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第II相比較試験 (ERICA)	神野浩光	外科学講座	¥130,000	委 西日本がん研究機構
リピドミクスを用いた大腸癌早期診断および脂質パネル検査の開発	端山軍	外科学講座	¥1,300,000	補 文部科学省
吸引脂肪組織の酸素化による生着率の高い新規脂肪注入移植法の開発	堂後京子	外科学講座	¥1,378,859	補 独立行政法人日本学術振興会
マイクロ流体技術とシリコン集積回路技術の融合による細胞診の高度自動化	長阪一憲	産婦人科学講座	¥250,000	委 AMED補助事業
婦人科がん患者体液中クラスター細胞のプロファイリング作成と転移メカニズムの解明	長阪一憲	産婦人科学講座	¥1,430,000	補 文部科学省
単一細胞解析による婦人科がん幹細胞ニッチの解明と新規治療法の開発	長阪一憲	産婦人科学講座	¥4,420,000	補 科学研究費助成事業
胎動に関連する因子の研究	梁栄治	産婦人科学講座	¥780,000	補 文部科学省
循環動態シミュレーターによる経皮的僧帽弁クリップ術の効果予測	渡邊雄介	循環器内科	¥1,040,000	補 文部科学省
妊婦・授乳婦における医薬品の安全性に関する情報提供の在り方の研究	伊藤直樹	小児科学講座	¥600,000	補 厚生労働省
妊婦・授乳婦における医薬品の安全性に関する情報収集及び情報提供の在り方に関する研究	伊藤直樹	小児科学講座	¥600,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
難治性小児白血病と神経芽腫に対する新規治療標的の同定と治療法の確立	樋渡光輝	小児科学講座	¥4,420,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
小児血液および固形がんにおける新規分子標的療法の確立	樋渡光輝	小児科学講座	¥100,000	補 がんの子供を守る会
MT2A再構成を伴う小児白血病およびクリプチニブ耐性ALK融合遺伝子を伴う悪性リンパ腫に対する標的分子の同定と新規分子標的療法の開発	樋渡光輝	小児科学講座	¥500,000	補 日本血液学会
ミトコンドリア病の診療水準やQOL向上を目指した調査研究	三牧正和	小児科学講座	¥15,600,000	補 厚生労働省
新規治療とガイドライン改訂を見据えた、包括的なミトコンドリア病のエビデンス創出研究	三牧正和	小児科学講座	¥910,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
新規治療とガイドライン改訂を見据えた、包括的なミトコンドリア病のエビデンス創出研究	三牧正和	小児科学講座	¥910,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
脳脊髄液減少症の疫学研究及び客観的診断法に資する研究	三牧正和	小児科学講座	¥150,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
新規化合物とミトコンドリア標的型ナノカプセルを用いた包虫症の新治療法の基盤的研究	遠海重裕	小児科学講座	¥910,000	補 文部科学省
先天性腎尿路異常の新規診断法の開発:被曝と侵襲のない検査をめざして	高橋和浩	小児科学講座	¥650,000	補 文部科学省
脳脊髄液減少症の疫学研究及び客観的診断法に資する研究	三牧正和	小児科学講座	¥150,000	補 厚生労働省
ミトコンドリア病新規治療法の開発:イノシンとフェブキソスタットによるATP増強	三牧正和	小児科学講座	¥1,300,000	補 文部科学省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	畑中裕己	神経内科学講座	¥400,000	補 厚生労働省
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴抽出と臨床応用	小林俊輔	神経内科学講座	¥2,210,000	補 文部科学省
継続的細胞移植によるドナー特異的抗体制御法の開発	山本康人	心臓血管外科学講座	¥4,290,000	補 科学研究費 (基盤研究C)
再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	山本康人	心臓血管外科学講座	¥3,000,000	委 順天堂大学
骨格筋損傷に対する筋機能評価と高気圧酸素圧酸素治療法の有効性	笹原潤 安井洋一	整形外科講座	¥2,990,000	補 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Does Pitch Count Affect Elbow Joint Torque and Finger Pinch Force in Baseball Pitchers?	塚田圭輔	整形外科科学講座	¥300,000	補 精密測定技術振興財団
指ピンチ力の変化は投球数に代わる新しい投球傷害予防の指標となるのか?	塚田圭輔	整形外科科学講座	¥1,000,000	補 日本スポーツ整形外科学会
がん時代の脊椎転移治療: 整形外科医の新たな役割と治療指針の確立を目指す挑戦的研究	平畑昌宏	整形外科科学講座	¥500,000	補 整形災害外科学研究助成財団
MPIによる動作解析を用いたインソールの有効性と安全性に関する研究	宮本亘	整形外科科学講座	¥4,160,000	補 日本学術振興会
いつでも、どこでも実施できる仮想空間を用いる整形外科手術トレーニング研修法の開発	宮本亘 安井洋一 塚田圭輔	整形外科科学講座	¥800,000	補 J&J Medical Research Grant
励起蛍光マトリクスを用いて、検体採取したその場で菌種・抗菌薬感受性を同定する技術	御任大輔	整形外科科学講座	¥1,600,000	補 日本学術振興会
整形外科におけるエビデンス診療ギャップの検証とエビデンス翻訳に対する実証的研究	坂なつみ	整形外科科学講座	¥910,000	補 文部科学省
ナショナルセンター・バイオバンクネットワークを基盤とする疾患別情報統合データベースを活用した産学官連携による創薬開発研究	功刀浩	精神神経科学講座	¥13,000,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
ヒトips細胞を用いた3次元脳関門チップの創製および臨床応用	功刀浩	精神神経科学講座	¥268,000	補 日本学術振興会
[1-13C]Trpと[1-13C]5-HTPの合成とうつ病の客観的診断法の開発	功刀浩	精神神経科学講座	¥300,000	補 日本学術振興会
ナショナルセンター・バイオバンクネットワークを基盤とする疾患別情報統合データベースを活用した産学官連携による創薬開発研究	功刀浩, 石田一希, 平石萌子	精神神経科学講座	¥13,000,000	補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
統合失調症者に対するタブレットデバイスを用いたハイブリッド型認知機能リハビリテーションの効果検討に関するプロトコール開発	渡邊由香子	精神神経科学講座	¥325,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
統合失調症者に対するタブレットデバイスを用いたハイブリッド型認知機能リハビリテーションの効果検討に関するプロトコール開発	渡邊由香子	精神神経科学講座	¥325,000	補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
精神疾患病態における神経ペプチドの役割に関する検討	秀瀬真輔	精神神経科学講座	¥390,000	補 文部科学省
内部障害を有する難病患者のフレイル実態調査	菊地弘敏	内科学講座	¥200,000	補 日本学術振興会
実臨床におけるdrug coated balloonの有効性検証	上妻謙	内科学講座	¥401,320	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
Post-CC OSCEを国家試験化するにあたっての妥当性・信頼性・公平性等の検証に関する研究	大久保由美子	内科学講座	¥1,000,000	補 厚生労働行政推進調査事業
令和5年度子育て世代の医療者支援事業	大久保由美子	内科学講座	¥6,450,000	補 厚生労働省事業
AIによる対話技術を活用した模擬患者アバターでの仮想空間医療面接教育基盤の創生	大久保由美子	内科学講座	¥37,500,000	補 科学研究費助成事業 基盤研究A
教学IRと質的研究の統合による医学部学生の学業に関するリスクスケールの開発	大久保由美子	内科学講座	¥3,300,000	補 科学研究費助成事業 基盤研究C
レジストリを活用したパーचेット病の予後不良病型発症予防のためのtreat-to-target開発	菊地弘敏	内科学講座	¥400,000	委 AMED
東京都におけるCOVID-19入院患者臨床疫学的検討	北沢貴利	内科学講座	¥250,000	委 国立国際医療研究センター
動物モデルに基づく乾癬合併症における尿酸の作用の解明	木村佳貴	内科学講座	¥1,560,000	補 日本学術振興会
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	河野肇	内科学講座	¥302,000	補 厚生労働省
手関節リウマチにおける活動性滑膜炎の非造影MR灌流画像評価法の開発	河野肇	内科学講座	¥100,000	委 日本学術振興会
骨髄腫における17p deletionの形質を明らかにする研究	白崎良輔	内科学講座	¥300,000	補 日本血液学会研究助成事業
肺線維化におけるIL-9の機能の解明	杉本直也	内科学講座	¥1,614,449	補 文部科学省
呼吸器疾患におけるIgAの病原性作用の解明と予防法の開発 20K08526	鈴川真穂	内科学講座	¥502,330	補 文部科学省
IgAによる慢性呼吸器疾患発症、増悪機序の解明と治療法への応用	鈴川真穂	内科学講座	¥922,002	補 文部科学省
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	田中篤	内科学講座	¥18,330,000	補 厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	補 厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確率を目指す研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	補 厚生労働省
統合オミックス解析による多因子型難病の発症機構の解明と創薬シーズの導出	田中篤	内科学講座	¥3,250,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	補 厚生労働省
地域の求める医師像をアウトカムとした地域医療とプライマリ・ケア教育の確立と検証	田中篤	内科学講座	¥50,000	補 文部科学省
サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築	長瀬洋之	内科学講座	¥3,000,000	補 厚生労働省
小児から若年成人での生物学的製剤の適正使用に関するエビデンスの創出	長瀬洋之	内科学講座	¥500,000	補 厚生労働省
本邦の実臨床における重症喘息および併存疾患に対するメボリズムマップの有用性	長瀬洋之	内科学講座	¥77,108,105	委 グラクソ・スミスクライン 委託費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大規模疾患コホート・アカデミア連携を基盤とするオミックス解析・サーベイランス体制の整備による新興感染症重症化リスク因子の探索	長瀬洋之	内科学講座	¥2,080,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
表現型別のぜん息増悪因子の同定と長期予後の解析	長瀬洋之	内科学講座	¥5,342,856	委 (独)環境再生保全機構
気管支喘息での神経系-免疫系クロストークにおける好酸球の役割の解明 (課題番号:21K08466)	長瀬洋之	内科学講座	¥272,037	補 文部科学省
パーチェット病に関する調査研究	廣畑俊成	内科学講座	¥200,000	補 厚生労働省
エクソソームを用いた下垂体腺腫でのソマトスタチンアナログ薬効予測システムの開発	盛田幸司	内科学講座	¥800,000	補 科学研究費助成事業 基盤研究C
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	吉野友祐	内科学講座	¥500,000	委 日本医療研究開発機構
国民にわかりやすい検診情報の伝達法に関する研究	渡邊清高	内科学講座	¥100,000	委 がん研究開発費
臓器内代謝の時空間的制御に由来する臓器連携を介した個体恒常性維持機構の解明	宇野健司	内科学講座	¥3,250,000	補 文部科学省
臓器内代謝の時空間的制御に由来する臓器連携を介した個体恒常性維持機構の解明	宇野健司	内科学講座	¥4,160,000	補 文部科学省
臓器内代謝の時空間的制御に由来する臓器連携を介した個体恒常性維持機構の解明	宇野健司	内科学講座	¥910,000	補 文部科学省
ヒドロキシンクロキン新規作用機序から解明するSLEにおける自然炎症の関与	河野肇	内科学講座	¥1,300,000	補 文部科学省
腎尿管ナトリウム輸送体及び糖尿病と高血圧の相互増悪機序の解明	山崎修	内科学講座	¥1,040,000	補 文部科学省
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴抽出と臨床応用	小林俊輔	内科学講座	¥2,210,000	補 文部科学省
臓器連関によるカリウム調節の分子基盤解明と“gut factor”の探索	石澤健一	内科学講座	¥1,430,000	補 文部科学省
理系アカデミアのパワハラ・アカハラ尺度の開発	大久保由美子	内科学講座	¥4,810,000	補 科学研究費助成事業 基盤研究B
気管支喘息での神経系-免疫系クロストークにおける好酸球の役割の解明	長瀬洋之	内科学講座	¥390,000	補 文部科学省
小児から若年成人での生物学的製剤の適正使用に関するエビデンスの創出	長瀬洋之	内科学講座	¥500,000	補 厚生労働省
サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築 (20KC2005)	長瀬洋之	内科学講座	¥3,000,000	補 厚生労働省
Sykはどのような機序により膠原病・慢性炎症における動脈硬化に促進的に作用するか	津久井大輔	内科学講座	¥1,300,000	補 文部科学省
原発性脂質異常症に関する調査研究	塚本和久	内科学講座	¥200,000	補 厚生労働省
脂質代謝そして糖代謝を同時に制御する新規蛋白PCSK7の総合的・網羅的機能解析	塚本和久	内科学講座	¥1,560,000	補 文部科学省
CRISPR screenを利用したCLL-1.CAR-T細胞療法をブーストさせる因子の網羅的探索	田代晴子	内科学講座	¥1,430,000	補 文部科学省
循環動態シミュレーターによる経皮的僧帽弁クリップ術の効果予測	渡邊雄介	内科学講座	¥1,040,000	補 文部科学省
IgAによる慢性呼吸器疾患発症、増悪機序の解明と治療法への応用	鈴木真穂	内科学講座	¥1,430,000	補 文部科学省
術者の“4次元的思考”をサポートする人工知能搭載脳神経外科手術支援システムの開発	辛正廣	脳神経外科学講座	¥2,340,000	補 文部科学省
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴抽出と臨床応用	小林俊輔	脳神経内科学講座	¥2,210,000	補 文部科学省
多系統蛋白質症に伴う封入体ミオパチーの病態解明と治療法の開発疾患iPS細胞を用いた病態研究とゲノム編集によるisogenic control細胞の作製	斉藤史明	脳神経内科学講座	¥9,100,000	委 AMED (AMED再委託) 競争的資金
次世代遺伝子編集システムを用いたFCMDに対するスプライニングスイッチ療法の確立	斉藤史明	脳神経内科学講座	¥2,080,000	補 文部科学省
AMED 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム疾患特異的iPS細胞を用いた病態解明・創薬研究課題「多系統蛋白質症に伴う封入体ミオパチーの病態解明と治療法の開発」	斉藤史明	脳神経内科学講座	¥9,100,000	委 AMED
バブル製剤を用いた浸潤性膀胱癌に対する超音波治療機器の開発	川合剛人,中川徹	泌尿器科学講座	¥4,000,000	補 公益財団法人テルモ生命科学振興財団
低線量X線透視動画を用いた肺換気・血流イメージングシステムの開発	山本浩太郎	放射線科学講座	¥1,129,785	補 文部科学省
「コロナウイルス感染症パンデミックが医療生産性変化に与える影響に関する研究」課題番号22K10475	中田善規	麻酔科学講座	¥3,300,000	補 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)(一般)
『新しい生活様式』に即した熱中症予防対策の評価及び推進のための研究	神田潤	救急医学講座	¥6,000,000	補 厚生労働省
救急救命士が行う業務の質の向上に資する研究	坂本哲也	救急医学講座	¥3,509,000	補 厚生労働省
AEDの適切な利用環境の構築に向けた研究	坂本哲也	救急医学講座	¥5,600,000	補 厚生労働省
循環器救急疾患に対する救急医療現場の連携推進のための課題抽出と専門医間の連携構築を目指したガイドブックの作成	坂本哲也	救急医学講座	¥200,000	補 厚生労働省
地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究	坂本哲也	救急医学講座	¥200,000	補 厚生労働省
『新しい生活様式』に即した熱中症予防対策の評価及び推進のための研究	三宅康史	救急医学講座	¥600,000	補 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
臓器・組織移植医療における医療者の負担軽減・環境改善に資する研究	三宅康史	救急医学講座	¥1,200,000	補	厚生労働省
体調起因性事故予防に向けたドライバーモニタリング及び運転支援技術の検討—救命救急センターにおける実証例の分析—	三宅康史	救急医学講座	¥750,000	委	日本損害保険協会
臓器・組織移植医療における医療者の負担軽減・環境改善に資する研究(23FF1001)	三宅康史	救急医学講座	¥1,200,000	補	厚生労働省
『新しい生活様式』に即した熱中症予防対策の評価及び推進のための研究(22LA2001)	三宅康史	救急医学講座	¥600,000	補	厚生労働省
大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究(22IA2005)	森村尚登	救急医学講座	¥500,000	補	厚生労働省
大規模イベントの公衆衛生・医療に関するリスクアセスメント及び対応の標準化に向けた研究(22LA2002)	森村尚登	救急医学講座	¥1,000,000	補	厚生労働省
大規模イベントの公衆衛生・医療に関するリスクアセスメント及び対応の標準化に向けた研究	森村尚登	救急医学講座	¥1,000,000	補	厚生労働省
大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究	森村尚登	救急医学講座	¥500,000	補	厚生労働省
エビデンスに基づく熱中症の診療指針の確立に向けての疫学調査と分析(19K18365)	神田潤	救急医学講座	¥3,200,000	補	文部科学省
高齢者の骨盤骨折の病態解明と低侵襲内固定手術法開発のための基礎研究	鈴木卓	救急医学講座	¥260,000	補	文部科学省
がん患者に対する運動器至適包括管理の基盤確立を目指した臨床研究	緒方直史	リハビリテーション科学講座	¥1,170,000	補	文部科学省
没入型VRにクロスモーダルを応用した高次脳機能障害のリハビリテーション治療法の開発	中原康雄	リハビリテーション科学講座	¥1,170,000	補	文部科学省
体外診断用医薬品に係る安全対策のあり方に関する研究	古川泰司	臨床検査医学	¥1,150,000	補	厚生労働省
大気中粒子による眼アレルギー疾患の疫学調査と実験的手法による原因究明と治療法開発	三村達哉	眼科学講座	¥0	補	文部科学省
抗体関連型拒絶反応に対する抗BTLA抗体と抗PD-1抗体併用療法の確立	今水流智浩	心臓血管外科学講座	¥650,000	補	文部科学省
筋萎縮性側索硬化症の早期確定診断に役立つ特異度の高いパラメータの探索	園生雅弘	神経内科学講座	¥1,040,000	補	文部科学省
針筋電図を代替する表面筋電図を用いた非侵襲的な神経筋疾患の診断法に関する研究	神林隆道	神経内科学講座	¥1,040,000	補	文部科学省
整形外科外傷包括的レジストリーシステム構築と臨床コホート応用の戦略的研究	乾貴博	整形外科科学講座	¥910,000	補	文部科学省
育成年代投手における投球数が肩甲骨位置と投球動作に与える影響の解明	中川匠	整形外科科学講座	¥650,000	補	文部科学省
MRSA骨感染症の克服を目指したテジゾリド最適化投与法の構築	渡部欣忍	整形外科科学講座	¥1,560,000	補	文部科学省
栄養による軟骨成長板幹細胞制御の解明	尾市健	整形外科科学講座	¥1,430,000	補	文部科学省
トップアスリートの競技復帰を加速するための高気圧酸素治療指針の確立	安井洋一	整形外科科学講座	¥1,040,000	補	文部科学省
術者の“4次元的思考”をサポートする人工知能搭載脳神経外科手術支援システムの開発	辛正廣	脳神経外科学講座	¥2,340,000	補	文部科学省
アイトラッキングによるカテーテル術者の視線解析と訓練に役立つ視線パターンの解明	庄島正明	脳神経外科学講座	¥1,170,000	補	文部科学省
イムノグラムを用いた尿路上皮癌に対するオーダーメイド免疫治療戦略	川合剛人	泌尿器科学講座	¥780,000	補	文部科学省
膿疱性乾癬でのTARC産生細胞の同定と病態解明	多田弥生	皮膚科学講座	¥1,820,000	補	文部科学省
難治性リンパ漏れに対する胸管内リンパ液自動誘導システムの開発	山本真由	放射線科学講座	¥1,430,000	補	文部科学省
化膿性脊椎炎に対する経皮的生検の細菌培養を目的とする新規生検針の構造の探索と開発	木下光博	放射線科学講座	¥2,080,000	補	文部科学省
遠位橈骨動脈アプローチにおける腹腔動脈挿管に最適なカテーテル形状の探索と新規開発	和田武	放射線科学講座	¥780,000	補	文部科学省

計143件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1		別紙 6 参照			
2					
3					
4					
5					
6					
～					
70					
～					

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

論文発表等の実績

高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Asako, Kentaro; Hayama, Tamuro; Hashiguchi, Yojiro. et al.	外科学講座	Prognostic Value of KRAS Exon-specific Mutations in Patients With Colorectal Cancer	Anticancer Research.2023 Apr;43(4):1563-1568	Article
2	Chen, Hao; Zhang, Ling ; Zhang, Yumeng. et al.	内科学講座	Prevalence and clinical features of long COVID from omicron infection in children and adults	Journal of Infection.2023 Apr;86(4):e97-e99	Letter
3	Goto, Yoshiaki ; Kawaguchi, Ai ; Inoue, Yuki. et al.	脳神経外科学講座	Efficacy of a Novel Augmented Reality Navigation System Using 3D Computer Graphic Modeling in Endoscopic Transsphenoidal Surgery for Sellar and Parasellar Tumors	Cancers.2023 Apr;15(7):-	Article
4	Hidese, Shinsuke; Ota, Miho ; Matsuo, Junko. et al.	精神神経科学講座	Association between the Pittsburgh sleep quality index and white matter integrity in healthy adults: a whole-brain magnetic resonance imaging study	Sleep and Biological Rhythms.2023 Apr;21(2):249-256	Article
5	Hirahata, Masahiro; Imanishi, Jungo; Fujinuma, Wataru. et al.	整形外科科学講座	Cancer may accelerate locomotive syndrome and deteriorate quality of life: a single-centre cross-sectional study of locomotive syndrome in cancer patients	International Journal of Clinical Oncology.2023 Apr;28(4):603-609	Article
6	Kataoka, Akihisa; Takata, Takeshi ; Yanagawa, Ayaka. et al.	循環器内科	Body Surface Radiation Exposure in Interventional Echocardiographers During Structural Heart Disease Procedures	JACC: Asia.2023 Apr;3(2):301-309	Article
7	Kito, Kento; Kataoka, Akihisa; Katayama, Taiga. et al.	循環器内科	Left ventricular outflow tract obstruction induced by party balloon inflation manoeuvre in transthoracic echocardiography	European Heart Journal – Case Reports.2023 Apr;7(4):-	Note
8	Kataoka, Akihisa; Shiba, Takahiko; Katagiri, Sayaka. et al.	循環器内科	Novel and Efficient Method for Diagnosing Infective Endocarditis Using 16S Ribosomal RNA Gene Amplicon Sequence	JACC: Case Reports.2023 Apr;11():-	Article
9	Tomizuka, Takafumi; Kikuchi, Hirotoishi; Okubo, Mai. et al.	内科学講座	Natural history of Behçet's disease focusing on remission of oral ulcers	Modern Rheumatology.2023 Apr;33(3):566-573	Article
10	Ichikawa, Yasuko; Seki, Nobuhiko; Honda, Takeshi. et al.	内科学講座	Multicenter, single-arm phase II study of modified carboplatin/ nab-paclitaxel in untreated performance status 2 patients with advanced non-small cell lung cancer: TORG1426	Translational Cancer Research.2023 Apr;12(4):873-886	Article
11	Kamata, Masahiro ; Tada, Yayoi.	皮膚科学講座	Optimal Use of Jak Inhibitors and Biologics for Atopic Dermatitis on the Basis of the Current Evidence	JID Innovations.2023 May;3(3):-	Review
12	Kaneko, Tomoyuki; Yanagida, Kazuki; Matsui, Kentaro. et al.	泌尿器科学講座	Predictive Factors of Lower Urinary Tract Injuries and Spontaneous Voiding Failure After Pelvic Fractures	In Vivo.2023 May;37(3):1323-1327	Article
13	Kondo, Rie ; Matsuda, Keiji ; Asako, Kentaro. et al.	外科学講座	A Case of Metastasis of Rectal Cancer to the Left Fourth Finger Middle Phalanx; [左第四指中節骨に転移を来した直腸癌の1例]	Japanese Journal of Gastroenterological Surgery.2023 May;56(5):290-298	Article
14	Mizoi, Yoshikazu ; Ikeda, Kei; Sonoo, Masahiro. et al.	脳神経内科学講座	Markedly prolonged compound muscle action potential duration in a patient with coronavirus disease 2019 related critical illness myopathy	Neurology and Clinical Neuroscience.2023 May;11(3):167-169	Article
15	Ryo, Eiji ; Yatsuki, Keita ; Seto, Michiharu. et al.	産婦人科学講座	Continuous monitoring of fetal gross movement and maternal glucose level using newly developed methods	AJOG Global Reports.2023 May;3(2):-	Article
16	Shibata, Shigeru; Hoshide, Satoshi.	内科学講座	Current situation of telemedicine research for cardiovascular risk in Japan	Hypertension Research.2023 May;46(5):1171-1180	Short survey
17	Shibata, Shigeru ; Asayama, Kei.	内科学講座	Reply to: Hypertension and severe COVID-19	Hypertension Research.2023 May;46(5):1355-	Letter
18	Tada, Yayoi; Itakura, Asako ; Hosono, Kumiko. et al.	皮膚科学講座	Psoriasis patient preferences for the use of biologics during the coronavirus era	Journal of Dermatology.2023 May;50(5):596-607	Article
19	Yamamoto, Ai ; Nakayama, Shin ; Wakabayashi, Yoshitaka. et al.	内科学講座	Urine neutrophil gelatinase-associated lipocalin as a biomarker of adult pyelonephritis	Journal of Infection and Chemotherapy.2023 May;29(5):508-512	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
20	Kono, Kaori ; Nagao, Tsuyoshi; Kanda, Tomoki. et al.	救急医学講座	Surgical source control in a patient with septic shock due to severe emphysematous pyelonephritis	Trauma Surgery and Acute Care Open.2023 May;8(1):-	Note
21	Fukuba, Michiko ; Dogo, Kyoko ; Saito, Koji. et al.	形成・口腔顎顔面外科学講座	A Case of Fibula Regeneration after Below-The-knee Amputation in an Adult	Plastic and Reconstructive Surgery – Global Open.2023 May;11(5):E4968-	Article
22	Misawa, Takeyuki ; Endo, Hideki; Mori, Toshiyuki. et al.	外科学講座	Skill-qualified surgeons positively affect short-term outcomes after laparoscopic gastrectomy for gastric cancer: a survey of the National Clinical Database of Japan	Surgical Endoscopy.2023 Jun;37(6):4627-4640	Article
23	Hokkoku, Keiichi ; Tsukamoto, Hiroshi; Uchida, Yudai. et al.	脳神経内科学講座	Different Tendencies in Muscle Ultrasound Characteristic in Amyotrophic Lateral Sclerosis and Chronic Inflammatory Demyelinating Polyradiculoneuropathy	Journal of Clinical Neurophysiology.2023 Jul;40(5):450-455	Article
24	Kido, Koichiro ; Barbera, Antonio; Nagasaka, Kazunori. et al.	産婦人科学講座	The role of transperineal ultrasonography for perinatal management: A review	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research.2023 Jul;49(7):1700-1709	Review
25	Suzuki, Yuki ; Nagase, Hiroyuki; Toyota, Hikaru. et al.	内科学講座	Questionnaire for diagnosing asthma-COPD overlap in COPD: Development of ACO screening questionnaire (ACO-Q)	Allergology International.2023 Jul;72(3):394-401	Article
26	Tanaka, Atsushi ; Atsukawa, Masanori ; Tsuji, Keiji. et al.	内科学講座	Japanese subgroup analysis of GLIMMER: A global Phase IIb study of linerixibat for the treatment of cholestatic pruritus in patients with primary biliary cholangitis	Hepatology Research.2023 Jul;53(7):629-640	Article
27	Tokura, Yuumi ; Kawai, Taketo ; Takei, Kazuki. et al.	泌尿器科学講座	Geriatric 8 and Vulnerable Elders Survey-13 predict length of hospital stay and postoperative complications in Japanese patients undergoing urological surgery	Journal of Geriatric Oncology.2023 Jul;14(6):-	Article
28	Kunugi, Hiroshi.	精神神経科学講座	Depression and lifestyle: Focusing on nutrition, exercise, and their possible relevance to molecular mechanisms	Psychiatry and Clinical Neurosciences.2023 Aug;77(8):420-433	Review
29	Sonoo, Masahiro.	脳神経内科学講座	Recent advances in neuroanatomy: The myotome update	Journal of Neurology, Neurosurgery and Psychiatry.2023 Aug;94(8):643-648	Review
30	Sonoo, Masahiro; Kanbayashi, Takamichi; Kobayashi, Shunsuke. et al.	脳神経内科学講座	Weak gluteus maximus and weak iliopsoas with normal gluteus maximus: Two complementary new signs to diagnose lower limb functional weakness	Brain and Behavior.2023 Aug;13(8):-	Article
31	Takahashi, Yuku; Kikuchi, Yoshinao; Mukaiyama, Junji. et al.	産婦人科学講座	High-grade endometrial stromal sarcoma with YWHAE-NUTM2B fusion gene abnormality identified after 10 years of recurrent pulmonary metastases: A case report	Gynecologic Oncology Reports.2023 Aug;48():-	Article
32	Toyooka, Seikai; Persson, Andreas ; LaPrade, Robert F. et al.	整形外科科学講座	Injury Patterns in Posterolateral Corner Knee Injury	Orthopaedic Journal of Sports Medicine.2023 Aug;11(8):-	Article
33	Tsukui, Daisuke ; Kimura, Yoshitaka ; Kono, Hajime. et al.	内科学講座	GM-CSF receptor/SYK/JNK/FOXO1/CD11c signaling promotes atherosclerosis	iScience.2023 Aug;26(8):-	Article
34	Fujii, Yuki; Murata, Yuki ; Hokkoku, Keiichi. et al.	脳神経内科学講座	Anti-amphiphysin-positive Progressive Encephalomyelitis with Rigidity and Myoclonus	Canadian Journal of Neurological Sciences.2023 Sep;50(5):781-783	Letter
35	Hashimoto, Kei ; Miyagawa, Yuku; Watanabe, Say. et al.	産婦人科学講座	The TGF- β /UCHL5/Smad2 Axis Contributes to the Pathogenesis of Placenta Accreta	International Journal of Molecular Sciences.2023 Sep;24(18):-	Article
36	Kataoka, Akihisa ; Kito, Kento ; Shirakura, Kazuyo. et al.	循環器内科	Increasing Venous Return Blood Flow to the Right Atrium Using the Party Balloon Inflation Maneuver	JACC: Case Reports.2023 Sep;22():-	Article
37	Kito, Kento ; Kataoka, Akihisa ; Hioki, Hirofumi. et al.	循環器内科	Paracentral MitraClip implantation technique in a mitral valve with a small area due to rheumatic change	AsiaIntervention.2023 Sep;9(2):166-167	Article
38	Matsumoto, Kensuke ; Kakazu, Naoki; Imataki, Osamu. et al.	内科学講座	Hairy cell leukaemia with an IGH-BRAF fusion gene	British Journal of Haematology.2023 Sep;202(6):e67-e70	Letter
39	Sonoo, Masahiro.	脳神経内科学講座	Education on neuromuscular electrodiagnosis and neurological symptomatology	Neurology and Clinical Neuroscience.2023 Sep;11(5):255-261	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
40	Tamura, Yamato ; Asaoka, Yoshinari ; Takeuchi, Akihito. et al.	内科学講座	Long-Term Prognosis and Related Factors in Patients with Cirrhosis Treated with Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration	Digestive Diseases.2023 Sep;41(5):789-797	Article
41	Toida, Chiaki ; Muguruma, Takashi ; Gakumazawa, Masayasu. et al.	救急医学講座	Validation of the Conventional Trauma and Injury Severity Score and a Newly Developed Survival Predictive Model in Pediatric Patients with Blunt Trauma: A Nationwide Observation Study	Children.2023 Sep;10(9):-	Article
42	Hoshino, Shunya; Takagi, Yusuke; Fukagawa, Takeo. et al.	緩和医療学講座	Is Low Volume Drainage of Ascites Associated With Improved Survival in Digestive System Cancer Patients With Malignant Ascites?—A Retrospective Cohort Study	Journal of Palliative Care.2023 Oct;38(4):473-480	Article
43	Ito, Makoto ; Kamata, Masahiro ; Ishikawa, Takeko. et al.	皮膚科学講座	Improvements in self-confidence and satisfaction with self-injection after introducing self-injection of dupilumab in patients with atopic dermatitis	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.2023 Oct;6(5):152-158	Article
44	Ito, Makoto ; Kamata, Masahiro; Uchida, Hideaki. et al.	皮膚科学講座	Immediate exacerbation of atopic dermatitis after switching from upadacitinib to dupilumab: A report of two cases	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.2023 Oct;6(5):168-171	Article
45	Matsuda, Keiji ; Fukushima, Yoshihisa; Asako, Kentaro. et al.	外科学講座	The first case of laparoscopic surgery for cecal cancer occurring in a blind loop	Asian Journal of Endoscopic Surgery.2023 Oct;16(4):790-794	Article
46	Matsumoto, Kosuke ; Hirohara, Junko ; Takeuchi, Akihito. et al.	内科学講座	Determinants of the effectiveness of bezafibrate combined with ursodeoxycholic acid in patients with primary biliary cholangitis	Hepatology Research.2023 Oct;53(10):989-997	Article
47	Nagao, Tsuyoshi; Toida, Chiaki ; Morimura, Naoto.	救急医学講座	Incidence, demographics and outcomes of patients with penetrating injury: A Japanese nationwide 10-year retrospective study	BMJ Open.2023 Oct;13(10):-	Article
48	Ohata, Chiaki ; Asayama, Kei ; Hosaka, Miki. et al.	内科学講座	Self-measured home blood pressure highlights cardiovascular risk in women: the HOMED-BP study	Hypertension Research.2023 Oct;46(10):2400-2408	Article
49	Yamazaki, Osamu ; Shibata, Shigeru .	内科学講座	Erratum to: Cross-classification by systolic and diastolic blood pressure levels and chronic kidney disease, proteinuria, or kidney function decline (Hypertension Research, (2023), 46, 8, (1860-1869), 10.1038/s41440-023-01267-1)	Hypertension Research.2023 Oct;46(10):2421-2424	Note
50	Kamata, Masahiro; Tada, Yayoi.	皮膚科学講座	Crosstalk: keratinocytes and immune cells in psoriasis	Frontiers in Immunology.2023 Nov;14():-	Review
51	Kanbayashi, Takamichi ; Kobayashi, Shunsuke; Hatanaka, Yuki. et al.	脳神経内科学講座	Idiopathic Inflammatory Myopathy with Delayed Finger Opening Resembling Grip Myotonia	Internal Medicine.2023 Nov;62(22):3397-3400	Article
52	Mimura, Tatsuya; Iwasaki, Miki ; Fukagawa, Kazumi.	眼科学講座	Impact of Kayumidas® app on subjective symptoms and treatment adherence in allergic Rhinocconjunctivitis: Prospective Single-Arm interventional pilot study	International Journal of Medical Informatics.2023 Nov;179():-	Article
53	Nagase, Hiroyuki ; Ito, Risako ; Ishii, Moe. et al.	内科学講座	Relationship Between Asthma Control Status and Health-Related Quality of Life in Japan: A Cross-Sectional Mixed-Methods Study	Advances in Therapy.2023 Nov;40(11):4857-4876	Article
54	Ochiai, Satoru ; Hayakawa, Itaru; Mutoh, Tatsuro. et al.	小児科学講座	Pediatric anti-neutral glycosphingolipid antibodies-positive encephalomyelodradiculoneuropathy presenting with prominent brain demyelination	Brain and Development.2023 Nov;45(10):579-582	Article
55	Seito, Toyoshi; Kaneko, Tomoyuki ; Kawai, Taketo. et al.	泌尿器科学講座	Solitary Fibrous Tumor in the Retroperitoneal Space Arising from the Diaphragm	In Vivo.2023 Nov;37(6):2849-2853	Article
56	Tada, Yayoi ; Morita, Akimichi ; Yamanaka, Keiichi. et al.	皮膚科学講座	Real-world retention rates and effectiveness of secukinumab in psoriasis: Results from a multicenter cohort study (RAILWAY)	Journal of Dermatology.2023 Nov;50(11):1415-1426	Article
57	Uchida, Hideaki ; Kamata, Masahiro; Watanabe, Ayu. et al.	皮膚科学講座	Improvement of severe alopecia areata after 9-month baricitinib treatment followed by subsequent use of upadacitinib in a patient with atopic dermatitis	Journal of Dermatology.2023 Nov;50(11):e392-e393	Letter
58	Hashimoto, Kei ; Kumagai, Tomoo ; Nomura, Kyosuke. et al.	産婦人科学講座	Validation of an on-chip p16ink4a/Ki-67 dual immunostaining cervical cytology system using microfluidic device technology	Scientific Reports.2023 Dec;13(1):-	Article
59	Hidaka, Ryo ; Tanaka, Takeyuki; Hashikura, Kazuaki. et al.	整形外科科学講座	Association of high kinesiophobia and pain catastrophizing with quality of life in severe hip osteoarthritis: a cross-sectional study	BMC Musculoskeletal Disorders.2023 Dec;24(1):-	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
60	Hirahata, Masahiro ; Yasui, Youichi ; Fujita, Muneyoshi. et al.	整形外科科学講座	Overweight increases perioperative spinal surgery complications: a single-center retrospective study	BMC Musculoskeletal Disorders.2023 Dec;24(1):-	Article
61	Kawai, Taketo; Taguchi, Satoru ; Nozaki, Keina. et al.	泌尿器科学講座	Prostate-specific antigen doubling time predicts the efficacy of site-directed therapy for oligoprogressive castration-resistant prostate cancer	Prostate International.2023 Dec;11(4):239-246	Article
62	Matsumoto, Akiko ; Jinno, Hiromitsu ; Naruse, Saki. et al.	外科学講座	Efficacy and safety of dose-dense neoadjuvant chemotherapy with nab-paclitaxel followed by epirubicin and cyclophosphamide for operable breast cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology.2023 Dec;53(12):1119-1124	Article
63	Mizuguchi, Taisuke ; Sawamura, Shigehito.	麻酔科学講座	Machine learning-based causal models for predicting the response of individual patients to dexamethasone treatment as prophylactic antiemetic	Scientific Reports.2023 Dec;13(1):-	Article
64	Mizutani, Yasushi ; Nagao, Tsuyoshi; Sato, Kenji. et al.	救急医学講座	An infected chronic expanding haematoma treated with hip disarticulation	BMJ Case Reports.2023 Dec;16(12):-	Article
65	Nishino, Tomohiko ; Hirano, Sakurako ; Takemura, Shin. et al.	小児科学講座	Glomeruli Count and Arterial Injury in Real-Time Ultrasound-Guided Needle Kidney Biopsy Specimens: Adequacy of Three Approaches for Pig Kidneys	American Journal of Nephrology.2023 Dec;54(11-12):528-535	Article
66	Oichi, Takeshi ; Kodama, Joe ; Wilson, Kimberly. et al.	整形外科科学講座	Nutrient-regulated dynamics of chondroprogenitors in the postnatal murine growth plate	Bone Research.2023 Dec;11(1):-	Article
67	Okutomi, Yuki ; Sajima, Takeyuki ; Yasuda, Atsushi. et al.	麻酔科学講座	Acute hypoxemia due to right-to-left shunt via a patent foramen ovale during left internal thoracic artery to left anterior descending artery anastomosis in off-pump coronary artery bypass grafting: a case report	JA Clinical Reports.2023 Dec;9(1):-	Article
68	Suzuki, Takashi; Inui, Takahiro ; Sakai, Miyoshi. et al.	整形外科科学講座	Type III Gustilo-Anderson open fracture does not justify routine prophylactic Gram-negative antibiotic coverage	Scientific Reports.2023 Dec;13(1):-	Article
69	Takasaki, Kazuki ; Ichinose, Takayuki ; Miyagawa, Yuko. et al.	産婦人科学講座	Serum vascular endothelial growth factor associated with the progression of granulosa cell tumor: a report of two cases	Journal of Ovarian Research.2023 Dec;16(1):-	Article
70	Uchida, Hideaki ; Kamata, Masahiro ; Ishikawa, Takeko. et al.	皮膚科学講座	Safety and effectiveness of fosravuconazole for the treatment of onychomycosis in haemodialysis patients: A single-centre retrospective study	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology.2023 Dec;37(12):e1455-e1457	Letter
71	Uno-Eder, Kiyoko ; Satoh-Asahara, Noriko; Hibiya, Manabu. et al.	内科学講座	Understanding impacts of COVID-19 restrictions on glycemic control for patients with diabetes in Japan	Journal of Diabetes and Metabolic Disorders.2023 Dec;22(2):1695-1703	Article
72	Chen, Hao ; Yamane, Takamasa ; Haruyama, Terunobu. et al.	内科学講座	Predictors of central line-associated bloodstream infections in cancer patients undergoing chemotherapy through implanted venous access ports: a retrospective, observational study	Translational Cancer Research.2023 Dec;12(12):3538-3546	Article
73	Hokkoku, Keiichi; Yamamoto, Junpei ; Uchida, Yudai. et al.	脳神経内科学講座	Frequency of EMG abnormalities in idiopathic inflammatory myopathies under the EULAR/ACR classification criteria	Medicine (United States).2024 Jan;103(4):-	Article
74	Kawashima, Hideyuki ; Numasawa, Yohei; Hayakawa, Naoki. et al.	心臓血管外科学講座	Review of Bleeding and Thrombotic Risks Associated With Antithrombotic Therapy After Transcatheter Structural Heart Interventions	JACC: Asia.2024 Jan;4(1):1-9	Review
75	Nishino, Tomohiko ; Niido, Mizuho ; Ochiai, Satoru. et al.	小児科学講座	A case of costovertebral angle tenderness without urinary abnormality due to posterior pararenal space abscess	Pediatrics International.2024 Jan;66(1):-	Article
76	Okochi, Masayuki ; Dogo, Kyoko ; Fukuba, Michiko. et al.	形成・口腔顎顔面外科学講座	Observing vessel stumps axially: A novel exoscope for end-to-end microvascular anastomosis	Journal of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery.2024 Jan;88():436-438	Article
77	Tada, Yayoi ; Soliman, Ahmed M. ; Ishii, Kanako. et al.	皮膚科学講座	Real-World Discontinuation and Switching Patterns for Interleukin-Inhibitor Treatments in Patients with Moderate-to-Severe Psoriasis in Japan	Dermatology and Therapy.2024 Jan;14(1):99-114	Article
78	Takeyama, Ryo ; Shirai, Suguru ; Nagao, Tsuyoshi. et al.	外科学講座	Massive hemoptysis secondary to hemorrhagic traumatic pulmonary pseudocysts	Trauma Surgery and Acute Care Open.2024 Jan;9(1):-	Note

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
79	Tanaka, Atsushi.	内科学講座	New Therapies on the Horizon for Primary Biliary Cholangitis	Drugs.2024 Jan;84(1):1-15	Article
80	Ueta, Yuki ; Kanbayashi, Takamichi ; Miyaji, Yosuke. et al.	脳神経内科学講座	The speed of completion of the decremental responses on repetitive nerve stimulation	Clinical Neurophysiology Practice.2024 Jan;9(0):211-216	Article
81	Watanabe, Tomohiro ; Yamauchi, Yoshikane ; Takeyama, Ryo. et al.	外科学講座	A Comparison of the Efficacies of OK-432 and Talc Slurry for Pleurodesis in Patients with Prolonged Air Leak after Pulmonary Resection	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery.2024 Jan;30(1):-	Article
82	Hidaka, Ryo ; Matsuda, Kenta ; Mochizuki, Hidetaka. et al.	整形外科科学講座	Initial stability of cementless acetabular cups using robotic-assisted total hip arthroplasty compared with the conventional manual technique: An in vitro biomechanical study	International Journal of Medical Robotics and Computer Assisted Surgery.2024 Feb;20(1):-	Article
83	Hirohata, Shunsei ; Kikuchi, Hirotooshi ; Sawada, Tetsuji. et al.	内科学講座	Effect of infliximab on chronic progressive neuro-behçet s disease: Influence of the timing of introduction on the patient outcome	Internal Medicine.2024 Feb;63(4):481-486	Article
84	Jinnin, Yu ; Tsunoyama, Taichiro ; Nagao, Tsuyoshi. et al.	外科学講座	Patient with severe blunt hepatic trauma involving vascular and common bile duct injuries treated in the hybrid emergency room system (HERS) by a multidisciplinary team	Trauma Surgery and Acute Care Open.2024 Feb;9(1):-	Article
85	Matsuda, Keiji ; Hashiguchi, Yojiro ; Hayama, Tamuro. et al.	外科学講座	Laparoscopy-Assisted Restorative Proctocolectomy with Ileal Pouch-Anal Anastomosis in Middle Colic Artery Ligation Immediately before Specimen Removal	Inflammatory Intestinal Diseases.2024 Feb;9(1):55-61	Article
86	Mimura, Tatsuya ; Sunarya, Willitri A. ; Tsuji, Kazuhiro. et al.	眼科学講座	Cleaning effects of eyewashes on ocular surface symptoms caused by air pollution in a single-center, two-arm, nonrandomized trial in Indonesia: first report from Jakarta study	Environmental Science and Pollution Research.2024 Feb;31(7):10967-10975	Article
87	Sakurai, Emi ; Kamata, Masahiro ; Uchida, Hideaki. et al.	皮膚科学講座	Impact of 1-year treatment with dupilumab on work productivity in Japanese patients with atopic dermatitis	Experimental Dermatology.2024 Feb;33(2):-	Article
88	Tada, Yayoi ; Komine, Mayumi ; Okubo, Yukari. et al.	皮膚科学講座	Treatment patterns of systemic drug use in Japanese patients with plaque psoriasis: A retrospective chart review	Journal of Dermatology.2024 Feb;51(2):210-222	Article
89	Tsukada, Keisuke ; Yasui, Youichi ; Miyata, Satoshi. et al.	整形外科科学講座	Effectiveness of Virtual Reality Training in Teaching Personal Protective Equipment Skills A Randomized Clinical Trial	JAMA Network Open.2024 Feb;7(2):E2355358-	Article
90	Watanabe, Ayu ; Kamata, Masahiro ; Okada, Yoshiki. et al.	皮膚科学講座	Real-world effectiveness and safety of baricitinib including its effect on biomarkers and laboratory data in Japanese adult patients with atopic dermatitis: a single-center retrospective study	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.2024 Feb;7(0):-	Article
91	Yamauchi, Yoshikane ; Adachi, Hiroyuki ; Takahashi, Nobumasa. et al.	外科学講座	Suitable Patient Selection and Optimal Timing of Treatment for Persistent Air Leak after Lung Resection	Journal of Clinical Medicine.2024 Feb;13(4):-	Article
92	Asakawa, Shinichiro ; Shibata, Shigeru.	内科学講座	Anti-adrenergic agents and the risk of postoperative acute kidney injury	Hypertension Research.2024 Mar;47(3):796-798	Note
93	Hayama, Tamuro ; Ochiai, Hiroki ; Nozawa, Kejiro. et al.	外科学講座	A case of rectal cancer complicated with segmental arterial mediolysis (SAM) safely treated with curative resection - A case report	International Journal of Surgery Case Reports.2024 Mar;116(0):-	Article
94	Inui, Takahiro ; Watanabe, Yoshinobu ; Suzuki, Takashi. et al.	整形外科科学講座	Anterior Malreduction is Associated with Lag Screw Cutout after Internal Fixation of Intertrochanteric Fractures	Clinical Orthopaedics and Related Research.2024 Mar;482(3):536-545	Article
95	Kohmaru, Shinya ; Saito, Yuichi ; Urata, Masahiro. et al.	外科学講座	Successful resection of a primary angiosarcoma of the azygos vein: A case report	Thoracic Cancer.2024 Mar;15(7):575-577	Article
96	Nakagawa, Tomoo ; Inui, Takahiro ; Matsui, Kentaro. et al.	整形外科科学講座	Effect of postoperative fracture gap on bone union: A retrospective cohort analysis of simple femoral shaft fractures	Journal of Orthopaedic Science.2024 Mar;29(2):632-636	Article
97	Tada, Yayoi ; Guan, Jia ; Iwasaki, Ryoko. et al.	皮膚科学講座	Treatment patterns and drug survival for generalized pustular psoriasis: A patient journey study using a Japanese claims database	Journal of Dermatology.2024 Mar;51(3):391-402	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
98	Yasuo Nakahara, Jun Mitsui, Hidetoshi Date, et al.	リハビリテーション医学講座	Genome-wide association study identifies a new susceptibility locus in PLA2G4C for Multiple System Atrophy.	medRxiv.2023 May 2:2023.05.02.23289328.	Original Article
99	Hayama T, Hama K, Ozawa T, et al.	外科学講座	Ceramide synthase CERS4 gene downregulation is associated with KRAS mutation in colorectal cancer.	Scientific Reports.2023 Sep;13(1)16249	Original Article
100	Kanda J, Wakasugi M, Kondo Y, et al.	救急医学講座	Heat stroke management during the COVID-19 pandemic: Recommendations from the experts in Japan (2nd edition)	Acute Med Surg. 2023 Apr 11;10(1):e827	Others
101	Yasui Y., Miyamaoto W., Takao M., et al.	整形外科科学講座	Evidence-Based Update on the Surgical Technique and Clinical	Cartilage,2024 Mar 20:19476035241239303.	Review
102	Ishii S, Kimura M, Akiyama T, et al.	内科学講座	Examination of the utility of the COVID-19 detection kit, TRC Ready® SARS-CoV-2 i for nasopharyngeal swabs	Drug Discoveries & Therapeutics,2023 May 15;17(2):134-138.	Original Article
103	Imoto S, Suzukawa M, Fukutomi Y, et al.	内科学講座	Phenotype Characterization and Biomarker Evaluation in Moderate to Severe Type 2-high Asthma	Asian Pac Allergy Immunol,2023 Jun;doi: 10.12932/AP-021222-1510. Online ahead of print.	Original Article
104	Matsumoto K, Hirohara J, Takeuchi A, et al.	内科学講座	Determinants of the effectiveness of bezafibrate combined with ursodeoxycholic acid in patients with primary biliary cholangitis.	Hepatol Res•2023 Oct;53(10):989-997.	Original Article
105	Shibata S.	内科学講座	Hypertension paradox in Japan: the road ahead.	Hypertens Res.2023 Nov;46(11):2497-2499.	Others
106	Ohata C, Asayama K, Hosaka M, et al.	内科学講座	Self-measured home blood pressure highlights cardiovascular risk in women: the HOMED-BP study.	Hypertens Res. 2023 Oct;46(10):2400-2408.	Original Article
107	Yamazaki O, Shibata S.	内科学講座	Don't miss the isolated diastolic hypertension.	Hypertens Res.2023 Oct;46(10):2421-2424.	Others
108	Kawagoe M, Odajima K, Asakawa S, et al.	内科学講座	A Diagnostic and Therapeutic Dilemma Concerning Exostosin 1/Exostosin 2-associated Lupus-like Membranous Nephropathy with Positive Antinuclear Antibody in an Elderly Man with Various Immune Abnormalities.	Intern Med.2023 Nov 1;62(21):3187-3194.	Case report
109	Wada A, Uchida Y, Hokkoku K, et al.	脳神経外科学講座	Utility of nerve ultrasound in the management of primary neurolymphomatosis: Case report and review of the literature	Clin Neurophysiol Pract.2023 May 6;8:92-96.	Case report
110	Yanagida K, Kaneko T, Saito K, et al.	泌尿器科学講座	Retroperitoneal capillary arteriovenous malformation mimicking a malignant neoplasm.	IJU Case Rep. 2023 Aug 28;6(6):398-401.	Case report
111	Yuki Okutomi, Yasutaka Konishi, Akihito Kakinuma, et al.	麻酔科学講座	Preoperative Femoral Nerve Block and Postoperative Sciatic Nerve Block at the Subgluteal Space After Total Knee Arthroplasty: A Retrospective Cohort Study	Cureus. 2023 Dec 21;15(12):e50882.	Original Article

小計 14件

合計111件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会への申請受け取りから開催準備、開催、開催審議結果の書類作成、判定書の作成及び送付、申請者への通知書や議事録の送付等を記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 10回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメント規定において、目的・定義・申告すべき教職員と自己申告の時期・自己申告すべき事項・利益相反状態の評価方法・審議結果の報告方法・啓蒙活動と情報の公開・個人情報の管理などについて規定している。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1476回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3回
・ 研修の主な内容 1. 研究関連リスクマネジメント総合研修（研究不正防止・公的研究費の不正使用防止・利益相反管理・安全保障輸出管理・知的財産管理） 2. 倫理委員長による大学院講義「人を対象とした研究の倫理：2023年6月10日」 3. 第12回TARCセミナー（「ランダム化比較試験における倫理審査のポイント」） 4. 全教職員と大学院生にe-ラーニング受講を義務付けている。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

〈内科〉

○内科集談会

化学療法中に大脳に形質細胞腫を生じた多発性骨髄腫の1例。

EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌からT790M遺伝子変異陽性と小細胞癌の形質転換による耐性機序が同時に認められた1例。

病棟での経験症例に基づいた臨床的知見に関する勉強会。

内分泌代謝糖尿病学に関係する最新の英語論文を題材とし、論文内容の把握、およびそれから発展する学習を行っている。

〈循環器内科〉

○冠動脈造影検査の評価および結果を上級医と確認し、今後の治療方針について検討する。冠動脈形成術施行症例を確認して、適切なデバイス選択や治療方法について学ぶ。

○TAVI症例の検討を循環器内科医、心臓外科医、麻酔科医、放射線技師やMEなどのコメディカルスタッフの多職種で検討する。

○死亡症例や合併症症例に対する原因と対策を多職種で話し合い検討する。

〈緩和ケア内科〉

○がん性疼痛の機序、評価及びWHO方式のがん性疼痛医療法を含むがん性疼痛・呼吸困難、消化器症状等の身体症状・不安、抑うつ及びせん妄等に対する緩和ケアについて。

がん医療におけるコミュニケーション技術、全人的な緩和ケアについて・放射線用法や神経ブロックの適応も含めた専門的な緩和ケアへの依頼・がん患者の療養場所の選択および地域連携についての要点。在宅における緩和ケア。

〈脳神経内科〉

○病棟の問題症例を中心に受持ち医などが、最新の文献上の知見などを調べて発表し、皆で知識を共有すると共に診療方針を検討する。

○シニアの医師による臨床症候、疾患、電気生理などについてのクルズス、受持医クラスが問題症例の発表を行い、ラウンドテーブル形式で討論して、皆の知識・技能の向上を図る。2020年度よりZoom開催を主体としており、遠方、海外からの参加者もある。

○整形外科（北川知明病院教授）、脳外科（辛正廣教授）と合同で、3科の脊椎脊髄にかかわる症例について、臨床、生理、画像検査を併せて主治医が症例提示し、ラウンドテーブル形式で討論し症例検討を行う。

〈外科〉

○消化器内科からの手術症例についての診断、手術術式、病理組織診断結果に関する消化器内科との検討回。

○腹腔鏡手術症例について腹腔鏡手術ビデオを見ながらの手術手技の検討(12回)と手術症例についての検討回(52回)

○大腸疾患の内視鏡診断に関する講義とシュミレーションを用いた大腸内視鏡挿入手技、治療手技の研修。

○肝胆膵疾患の外科治療対象症例に関して、手術や病理標本のプレゼンテーション、術直前症例の術前サマリー・画像診断の確認をおこなう。

○肝胆膵疾患の内科困難症例、外科治療症例に関して、主に画像診断・手術報告・病理標本のプレゼンテーションをおこなう。

○毎週月曜、火曜日にその週および翌週の手術予定患者について診断、合併症の有無とその対策、周術期管理法、術式、追加的治療の必要性について討議する。

○上部消化管外科手術患者に対する最新の手術方法・周術期管理法を解説した。

○乳腺外科医を中心に、形成外科医、腫瘍内科医、放射線医、放射線技師、薬剤師などがチームとなって乳腺疾患に関する情報を共有・検討する。

〈小児外科〉

○入院患者の治療方針の決定。手術期患者の術式、術後経過、手術合併症等の検討。

〈脳神経外科〉

○当科に入院し、今後、手術加療が必要となる患者に対し手術方針の検討を、臨床画像や3Dシミュレーション画像を用いて検討を行い、研鑽を積む。

○脳神経外科、脳神経内科の医師を対象に、症例の医療画像を確認しながら、画像上の特徴について、議論を行いながら、診断について検討を行い、研鑽を積む。

○脳神経外科、内分泌内科の医師を対象都市、間脳下垂体腫瘍を中心に、こうした部位の病変に対し、術前検討と術後の患者の状態についての管理について、議論を行うと共に、研鑽を積む。

〈整形外科〉

○当院で手術を行う患者および行った患者を対象としている。患者情報を用い、整形外科および外傷センターの全構成員が一同に会する場で、整形外科疾患および外傷に関する診断、手術適用、術式などの妥当性を研修する。

○整形外科および関連分野の最新の知見を、講演を通して学ぶ。

○当院外傷センターおよび関連施設で勤務する専攻医が経験した症例を通して学んだ事項を発表することにより、プレゼンテーションの研修および、症例発表に対する準備を研修する。

〈心臓血管外科〉

○心臓血管外科 専門領域としてのスペシャリティ領域について 大血管 冠動脈 僧帽弁形成 大動脈弁形成 TAVI ステンントグラフト 大動脈解離 人工血管置換 等 ガイドラインや最新論文を交えて解説する。

○医学論文を書く上で最低限身に付けておきたい医学統計について実例を交えながら解説する。

○実際のブタの心臓を用いて、冠動脈吻合や人工血管置換術・弁置換術を行い、解剖や主義の解説をし知識を深める。

○心臓血管外科手術手技（開胸・ITA採取・人工心肺カニュレーション・人工血管吻合）に関して、手技をやり始めた若手を中心として方法・コツ等について討論する。

〈泌尿器科〉

○進行性前立腺癌に対する集学的治療

○転移性前立腺癌に対する至適upfront治療

○RARCの手術手技について再考する

○当院における転移性腎細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬併用療法の治療成績

○エビデンスから最適な前立腺がん治療アルゴリズムを再考するSequence&Switching

〈リハビリテーション科〉

○リハビリテーション治療の症例や研究内容の発表と報告。

〈精神神経科〉

○病棟患者すべての入院後経過を共有し、治療方針、問題点等を検討する。同時に、行動制限の適切性なども協議し、医療倫理や法的順守の重要性についても研修を行う。

○特定の患者の診断、治療方針、退院支援等について、生活歴や家族歴、経過、病棟生活の様子などをもとに多職種（医師、看護師、薬剤師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士）で検討を行う。精神疾患や検査・治療に関する最新の医学知識に加え、患者の生活を支える社会的視点も学ぶ。

○入院患者の病状、生活状況、入院生活上の問題点が看護師中心に話し合われるが、医師として参加し、その立場からの見解を提示する。協議内容を治療に生かすことで臨床スキルの向上を目指すとともに、多職種協働医療の在り方を研修する。

○精神神経科に所属する全医師の研究発表、および外部講師による勉強会を行っている。なお、勉強会ではトピックスから所属医師が希望する内容まで精神医学全般に渡って幅広く行われているのが特徴である。

〈形成外科〉

○術前カンファで術式の選択、手術デザインを検討する。術中-術後の状態を撮影したデジタルカメラ像を投影し手術の確認を行い適正に行われたか、問題点がなかったかについて検証する。
○新着英文雑誌より興味のある内容の論文を選択し、抄読会を行う。
○週1回病棟の褥瘡患者を回診し、その治療法について検討する。また褥瘡の予防法を学び院内での有病率低下に努める。

〈歯科口腔外科〉

○病院歯科における周術期等口腔機能管理について
○顎変形症患者における術前のモデルオペについて
○口腔癌の診断と治療について

〈皮膚科〉

○生検担当医が病理組織と臨床写真を提示し、症例検討を教授を含む上級医と行い診断治療方針を決定する。担当した患者の治療方針を医局全体で共有するよう努めている。
○新入局員、入局2～3年目までをメインに集め、各皮膚疾患を分野ごとに学生講義を担当している医師が講義する。顕微鏡の使い方、カメラ操作：論文に載せる臨床写真の撮り方、レーザーの方法、真菌直接鏡検の方法、最新の英語論文の抄読会など日々の診療で役立つ内容で構成されている。

〈眼科〉

○その週に予定されている手術症例に関して、その適応に関して議論し、術式に関しても適切であるか検討する。
○眼科に関して学術的な発表を一般演題として3演題および特別演題として教育的内容の演題1題が発表される研究会である。一般演題に関しては、シニアレジデントが発表することが多い。
○眼科の専門的な内容に関して、帝京大学眼科のスタッフがそれぞれの専門分野に関して、シニアレジデントを対象として30分程度の講義を行う。

〈耳鼻咽喉科〉

○入院症例ならびに問題がある外来症例についてのカンファランス放射線科と合同で、放射線治療例の検討等も行う。

〈小児科〉

○小児科のみならず臨床的に関連する専門領域（2022年度は小児血液・腫瘍、小児内分泌）の専門医より、小児臨床の周辺疾患について学ぶ。
○当院小児科に入院している症例について、各疾患分野の専門医を中心に症例検討をすることを通して疾患の理解を深める。
○当院小児科で入院・外来で加療している神経疾患の症例について、小児神経専門医がコアとなり、検査結果を検討するとともに、今後の診断・治療方針の討論に参加し、小児神経疾患に対する理解を深める。
○シニアレジデントを主な対象とし、各診療グループのリーダーがそれぞれの分野で習得すべき疾患の病態生理、最新の治療法を教示する。
○帝京大学小児科で加療中の症例で、治療や診断に難渋した症例、教訓的な症例について討論する。

〈放射線科〉

○IVRの適応、術式について

- 核医学の診断について
- 放射線治療の適応、経過について
- 教育的な症例の画像診断について
- 他

〈産婦人科〉

- 産科ガイドライン 婦人科ガイドライン分子標的治療薬 無痛分娩 胎児心拍陣痛図
- 周産期医療、小児科 新生児科との連携
- 放射線治療内容の確認 臨床試験の確認

〈麻酔科〉

- 前日のすべての手術症例に関して報告し、問題点と改善すべき事項について確認する。また当日施行予定の手術麻酔に関する検討を行う。
- 麻酔科学全般に及ぶ基礎的事項のレクチャー
- 麻酔科学全般に及ぶ高度かつ先進的な話題についてのレクチャー
- 毎週土曜日、1週間の症例を振り返り、麻酔管理上の問題点や重要な合併症を生じた事例について、背景や要因、今後の対策等について検討する。
- 学会発表、論文作成にかかわる研究全般について、研究計画の段階から討論する。

〈救急科〉

- 自施設における死亡または重傷者症例について後方視的に診断・鑑別・検査等について多角的な視点から再検討し、次回同様な症例に接した時によりよい対応ができるように検討し合う。
- 最近話題・経験した症例に関するエビデンスのある論文を参加者全員で読み解き、今後の治療・研究に生かす。
- 当科に搬送される重症外傷患者の初期診療を円滑に進めるため、実際の症例をもとに手順・再確認を上級医と共に実習する。

〈病理診断科〉

- 数件の解剖例を臨床的検索希望事項を含め、解説、協議検討を行う。
- 1～2例程度の婦人科疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などをあげ、協議や検討を行う。
- 3～4例程度の呼吸器疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などをあげ、協議や検討を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	216人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
上妻 謙	内科	主任教授	34 年	
石川 敏夫	内科	教授	31 年	
長瀬 洋之	内科	教授	31 年	
渡邊 雄介	循環器内科	准教授	22 年	
関 順彦	腫瘍内科	教授	29 年	
有賀 悦子	緩和ケア内科	主任教授	37 年	
渡辺 温子	緩和ケア内科	病院准教授	28 年	
小林 俊輔	脳神経内科	主任教授	31 年	
落合 大樹	外科	教授	26 年	呼吸器外科・消化器外

					科・小児外科含む
野澤 慶次郎	外科	准教授	33	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
端山 軍	外科	講師	22	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
佐野 圭二	外科	教授	34	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
三澤 健之	外科	教授	38	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
坂尾 幸則	外科	教授	35	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
深川 剛生	外科	主任教授	35	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
神野 浩光	外科	教授	37	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
細田 利史	小児外科	講師	23	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
辛 正廣	脳神経外科	主任教授	30	年	
河野 博隆	整形外科	主任教授	33	年	
松井 健太郎	整形外科	准教授	22	年	
今水流 智浩	心臓血管外科	教授	29	年	
内山 雅照	心臓血管外科	講師	20	年	
中川 徹	泌尿器科	主任教授	30	年	
緒方 直史	リハビリテーション科	主任教授	32	年	
功刀 浩	精神神経科	主任教授	38	年	
渡邊由香子	精神神経科	講師	21	年	
小室 裕造	形成外科	主任教授	38	年	
大河内 真之	形成外科	病院教授	29	年	
大金 覚	口腔外科	准教授	19	年	
多田 弥生	皮膚科	主任教授	26	年	
田中 隆光	皮膚科	講師	15	年	
井上 裕治	眼科	主任教授	26	年	
水野 嘉信	眼科	助教	26	年	
伊藤 健	耳鼻咽喉科	主任教授	36	年	
三牧 正和	小児科	主任教授	30	年	
小林 茂俊	小児科	教授	37	年	
伊藤 直樹	小児科	講師	30	年	
近藤 浩史	放射線科	教授	26	年	
神長 達郎	放射線科	病院教授	36	年	
白石 憲史郎	放射線科	病院教授	25	年	
山本 麻子	放射線科	准教授	17	年	
長阪 一憲	産婦人科	主任教授	24	年	
柿沼 玲史	麻酔科	病院教授	27	年	
原 芳樹	麻酔科	教授	37	年	
張 京浩	麻酔科	教授	36	年	
三宅 康史	救急科	教授	40	年	
笹島 ゆう子	病理診断科	主任教授	28	年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている

診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容（リハビリテーション部）

○日本リハビリテーション医学会学術集会

研修の期間・実施回数：2023年6月 4回

研修の参加人数：4名

・研修の主な内容（病院病理部）

○東京都細胞検査士会学術研修会

研修の期間・実施回数：2023年6月 1回

研修の参加人数：5名

・研修の主な内容（病院病理部）

○東京都臨床細胞学会総会・学術集会

研修の期間・実施回数：2023年7月 1回

研修の参加人数：6名

・研修の主な内容（放射線部）

○東京CTテクノロジーセミナー学術集会

研修の期間・実施回数：2023年6月～2024年2月 5回

研修の参加人数：1名

研修の主な内容（放射線部）

○TAVIカンファレンス

研修の期間・実施回数：2023年4月～2024年3月 17回

研修の参加人数：10名

・研修の主な内容（放射線部）

○乳腺外科オペ前カンファレンス

研修の期間・実施回数：2023年4月～2024年3月 42回

研修の参加人数：5名

・研修の主な内容（栄養部）

○日本病態栄養学会年次学術集会

研修の期間・実施回数：2024年1月 2回

研修の参加人数：3名

・研修の主な内容（輸血部）

○日本輸血・細胞治療学会学術総会
研修の期間・実施回数：2023年5月 1回
研修の参加人数：2名

・研修の主な内容（輸血部）

○東京都輸血療法研究会
研修の期間・実施回数：2023年11月 1回
研修の参加人数：4名

・研修の主な内容（中央検査部）

○東京都臨床検査技師会
研修の期間・実施回数：2023年4月～2024年3月 21回
研修の参加人数：17名

・研修の主な内容（中央検査部）

○都臨技生理検査研修会
研修の期間・実施回数：2023年11月 3回
研修の参加人数：6名

・研修の主な内容（薬剤部）

○日本臨床腫瘍薬学会学術大会
研修の期間・実施回数：2024年3月 3回
研修の参加人数：9名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容（病院病理部）

○がんゲノム医療従事者陽性研修会
研修の期間・実施回数：2023年12月 1回
研修の参加人数：1名

・研修の主な内容（放射線部）

○一般撮影+Angio業務カンファレンス
研修の期間・実施回数：2023年5月～2024年1月 5回
研修の参加人数：6名

・研修の主な内容（輸血部）

○部内研修
研修の期間・実施回数：2023年4月～2024年3月 6回
研修の参加人数：部署全員

・研修の主な内容（輸血部）

○診療技術者連携委員会主催 勉強会「ハラズメントについて」

研修の期間・実施回数：2024年2月 1回
研修の参加人数：5名

・研修の主な内容（中央検査部）

○採血室部門教育、生理機能検査室部門教育、微生物検査室部門教育

研修の期間・実施回数：2023年4月～2024年3月 16回

研修の参加人数：136名

・研修の主な内容（ME部）

○新規導入機器に対する研修会

研修の期間・実施回数：2023年4月～2024年3月 5回

研修の参加人数：56名

・研修の主な内容（ME部）

○既存機器に対する研修会

研修の期間・実施回数：2024年3月

研修の参加人数：5

名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	診療録 小笠原 后香
管理担当者氏名	稲垣 宏治・目黒 洋子・小久保 真

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	診療録の持ち出しは原則禁止している。やむを得ず持ち出す場合は、個人情報管理統括責任者（病院長）の承認を必要とする。持ち出しは記録を行い、保管管理する。	
		各科診療日誌	総務課		
		処方せん	薬剤部		
		手術記録	医療システム部		
		看護記録	医療システム部		
		検査所見記録	医療システム部		
		エックス線写真	医療システム部		
		紹介状	医療システム部		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療システム部		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課		
		高度の医療の提供の実績	各科診療科・総務課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	〃		
		高度の医療の研修の実績	〃		
		閲覧実績	総務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室		
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課・医療サービス課 薬剤部	
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理部 総務課	
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理部 総務課	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理部 総務課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理部 総務課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部 総務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 総務課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理部 薬剤部 総務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 総務課
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課 薬剤部 (DI室) 安全管理部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部 中央放射線部 総務課
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	安全管理部 総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	安全管理部 総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	安全管理部 感染制御部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談室 安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人本部総務課 病院総務課
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	小笠原 后香(専任・診療録管理)
閲覧担当者氏名	稲垣 宏治・目黒 洋子・小久保 真
閲覧の求めに応じる場所	・診療情報管理部・閲覧室
閲覧の手続の概要 様式第5に記載の通り、「病院の管理及び運営に関する諸記録」はそれぞれの担当管理部署で適正に保管しているため、医師や歯科医師等から依頼があった場合には、全体の窓口は総務課となる。依頼用紙に記入してもらい、閲覧室内で対応する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした、事故報告書にもとづく改善策の立案、実施に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 病院職員と患者の情報共有に関する基本方針 7. 患者と家族への説明と同意に関する基本方針 8. 患者と家族等からの相談への対応に関する基本方針 9. 高難度新規医療技術の導入に関する基本指針 10. 安全管理対策に関する指針および安全管理マニュアルの見直しと周知の方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（☑・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理対策の推進 (2) 医療事故発生防止のために平時より次の事項を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全に関する情報収集 ②医療安全に係わる職員教育 ③事故発生防止策と施設・設備の改善計画の立案 ④事故発生防止策の実施状況の調査と必要に応じた見直し ⑤医療安全に係わるモニタリング項目の策定 (3) 当院において重大な問題その他本委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に次の事項を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①原因究明のための調査および分析 ②診療録、看護記録等の調査および指導 ③患者、家族等への対応状況の確認および指導 ④再発予防策の立案・実施・職員への周知徹底 ⑤再発予防策の実施の状況の調査および必要に応じた見直し (4) すべての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の管理者への報告および職員への研修・指導 (5) 特定機能病院間相互のピアレビューの結果報告に基づく改善策の立案 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 12 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p style="text-align: center;">別紙 7 参照</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p style="padding-left: 20px;">安全管理委員会において事故の事例分析および発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会および組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 院内感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策のための指針および院内感染対策要綱の見直しと周知の方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染状況を監視、調査するとともに、対策を立案し、その拡大を防止するための具体策を関係方面に提言するとともに、対策の実施について病院長および感染制御部長に具申する。 2. 周知すべき感染症の情報を院内諸方面に伝達する。 3. その他、院内感染予防のために必要な業務を行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p style="text-align: center;">別紙 8 参照</p>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染制御部・感染制御委員会において感染症発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p style="text-align: center;">別紙 9 参照</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 病棟における医薬品の管理に関する事項 6. 入院患者への医薬品使用に関する事項 7. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 8. 他施設との連携に関する事項 9. 院内製剤に関する事項 10. 放射性医薬品に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>モーズ軟膏：乳がん浸潤による皮膚潰瘍の汚臭、止血効果を目的に使用</p> <p>ヒスチジン銅：小児のメンケス病に対して継続使用</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品情報室は収集した医薬品情報を評価し、院内へ提供する。院内採用医薬品の添付文書改訂情報、新規採用医薬品に関する情報等は、医薬品情報室でとりまとめて「DIニュース」、「新規採用薬概略」を作成して院内に電子カルテへの掲示等を介して周知する。緊急安全性情報・安全性速報が発出された際は迅速に対応し、通知を作成して院内に電子カルテへの掲示等を介して周知する。また、病棟を担当する薬剤師等を通じて院内の医薬品の使用状況を定期的に（1カ月に1回）確認し、その結果を踏まえて添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時または医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告する。医薬品安全管理責任者は、報告された情報を踏まえ、安全管理部長に報告するとともに、必要に応じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を、医薬品情報室を通じて周知する。さらに、患者への説明・同意に関するカルテ記載等についても薬剤師が確認し、必要に応じて医師に疑義を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 243 回 (全体研修1回)
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、人工心肺および補助循環装置、血液浄化装置、除細動器（AEDを除く）、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置に対して定期研修を計画・実施し、実施状況を毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。</p> <p>・ 生命維持管理装置の定期安全研修：14回</p> <p>・ 新規導入機器に対する研修会：199回</p> <p>・ 既存機器に対する研修会：29回</p> <p>・ 全体研修：別紙 10 参照</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、人工心肺および補助循環装置、血液浄化装置、除細動器（AEDを除く）、閉鎖式保育器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、麻酔器、診療用高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置、CT装置、MRI装置、ポータブル撮影装置など委員会にて必要と判断された機種種の点検計画を策定する。前年度の3月の医療機器安全管理委員会までに医療機器安全管理責任者の承諾を取る。新年度より計画に基づき点検を実施する。実施状況は毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。</p> <p>保守点検の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 使用前、使用中、使用後の点検 2) 定期点検及び年次点検（医療機器ごとに期間を設定し、メーカー依頼している。） 3) 点検方法は各医療機器の添付文書・取扱説明書を参考に実施。 4) 院内や院外のインシデント等の事例から点検方法や項目の追加・修正 	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (・ 無)

医療機器安全使用のために必要な情報の収集・取扱説明書と添付文書を電子カルテへ掲示・メーカーからの情報提供やインターネットからPMDA、医療安全情報などを収集し、安全管理部および安全管理委員会と連携し、電子カルテインフォメーション、医療機器安全研修会にて通達、報告している。

- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器の不具合事象の報告があり、安全管理部および安全管理委員会と連携し、必要な部署に周知し、かつ事象の改善と対策をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は安全管理担当副院長が担っており、安全管理担当副院長は安全管理委員会委員長及び、安全管理部副部長を務めている。医薬品安全管理責任者及び、医療機器安全管理責任者は安全管理部に所属し、安全管理委員会において活動状況を報告している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（9名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用状況を把握するために薬剤部内に所属する全ての薬剤師を指名し、以下の業務を確認する。</p> <p>医薬品情報室の薬剤師が、病棟を担当する薬剤師を通じて院内の医薬品の使用状況を定期的に（1カ月に1回）確認し、その結果を踏まえて添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時または医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>医薬品安全管理責任者は、報告された情報を踏まえ、安全管理部長に報告するとともに、必要に応じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を、医薬品情報室を通じて周知する。</p> <p>医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用のための業務手順書を作成し、業務の実施状況をチェックリストにより確認を行う。不適切な実施状況がみとめられた場合は医薬品安全管理委員が改善状況を確認し（2024年9月にチェックリストによる確認を実施し、集計。今後ラウンド予定）、その結果を医薬品安全管理委員会に報告するとともに、必要に応じて、院内従事者に対する医薬品の安全使用のための研修を実施する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤師等の医療従事者は、未承認の医薬品等（治験等を除く）の使用、医薬品の適応外・禁忌等に該当する処方または指示を見いだした場合、薬剤部医薬品情報室に報告する。また、必要に応じて、処方医等に当該処方または指示の必要性やリスク検討の有無、妥当性等を確認し、指導を行い、その内容を診療録に記載する。</p> <p>医薬品安全管理責任者は、薬剤部医薬品情報室に報告された、未承認の医薬品等（治験薬を除く）の使用、医薬品の適応外・禁忌等に該当する処方または指示に関する情報を定期的に（1カ月に1回）</p>	

確認し、必要に応じて、処方医等への指導を行うとともに、未承認の医薬品等（治験薬を除く）の使用に関して必要な情報を、医薬品情報室を通じて周知する。

医薬品安全管理責任者は、未承認等の医薬品使用の状況把握と必要性の検討等を実施するために、担当者を定める。

・担当者の指名の有無（・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部調剤・製剤部門責任者，職種：薬剤師）

（所属：薬剤部麻薬担当責任者，職種：薬剤師）

（所属：薬剤部注射調剤・薬品管理部門責任者，職種：薬剤師）

（所属：薬剤部病棟部門責任者，職種：薬剤師）

（所属：薬剤部化学療法部門責任者，職種：薬剤師）

（所属：薬剤部医薬品情報部門責任者，職種：薬剤師）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（・無）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：診療情報管理部と連携して、定められた書式を用いて適正な手順で説明を行っているか、診療録にIC記録（テンプレート）があるか点検を行っている。

：研修会にてインフォームドコンセントの正しい手順について指導を行っている。

：改善が必要な診療科に対してインフォームドコンセント管理責任者が指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

別紙 11 参照

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

・無

・所属職員：専従（7）名、専任（0）名、兼任（29）名

うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（20）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 安全管理対策の推進
- (2) 安全管理部会および臨時の安全管理委員会の開催
- (3) リスクマネージャー会議を開催し、安全管理委員会で決定された事項の周知徹底
- (4) 医療安全対策の推進
- (5) 医療事故発生防止のための情報収集と教育
- (6) 医療安全に資する診療内容および従業者の医療の安全に関する意識の向上のモニタリング
【モニタリング項目：死亡事例、口頭指示、手術時の出血、カテーテル挿入、緊急蘇生チーム要請、Rapid Response Team (RRT) 要請、転倒転落事例】
- (7) 院内各部署への立ち入り調査と関係書類の調査
- (8) 安全管理に関わる関係部署との連絡調整
- (9) 医療事故発生防止のための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査
- (10) 特定機能病院間相互のピアレビュー実施および結果報告
- (11) 発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案および実施
- (12) 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導
- (13) 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導
- (14) 発生した医療事故の原因の究明および指導
- (15) 発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底
- (16) 安全管理委員会、安全管理部会、リスクマネージャー会議の資料および議事録の作成並びに保存等の庶務に関すること
- (17) 全ての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集および管理者への報告
- (18) 研究に関わる有害事象報告について臨床試験・治験統括センターへの情報提供
- (19) 高難度新規医療技術評価係を設置し、高難度医療技術（その実施により患者の死亡その他の重大な影響が想定される医療技術をいう。以下同じ。）を用いた医療の提供に関する経験および知識を有する医師または歯科医師を責任者として、高難度新規医療技術の実施の適否を判断すること
- (20) 未承認新規医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供を判断すること
- (21) 適応外医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、適応外医薬品等を用いた医療の提供を判断すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従業者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（13件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

各診療科からの下記確認事項（①～⑤）の申請に対し、高難度新規医療技術評価委員会に導入の適否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ提供の適否判定を行い、診療科長および病院長へ結果通知。提供後、および以降定期的に（3ヵ月後、6ヵ月後、1年後）実施報告内容の確認を行う。

- ①患者の病態等を踏まえた既存技術の限界・問題点
- ②高難度新規医療技術と既存の医療技術とを比較した場合の優位性
（合併症の重篤性及び発生の可能性等の安全性の観点を含む）
- ③当該高難度新規医療技術を用いた医療を提供する医師又は歯科医師その他の従業員の高難度医療技術を用いた医療の提供に関する経験
- ④必要な設備・体制の整備状況（集中治療室、麻酔科医師、看護師との連携等）
- ⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（22件）、及び許可件数（22件）

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

各診療科からの下記確認事項（①～⑤）の申請に対し、未承認新規医薬品等評価委員会に使用の適否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ使用の適否判定を行い、診療科長および病院長へ結果通知。使用后、および以降定期的に（3ヵ月後、6ヵ月後、1年後）実施報告内容の確認を行う。

- ①患者の病態等を踏まえた既存医薬品等の限界・問題点
- ②当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品等を比較した場合の優位性
（予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む）
- ③未承認新規医薬品等の使用条件（使用する医師又は歯科医師の制限等）
- ④当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法
- ⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 766 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 347 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

すべての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の管理者への報告および職員への研修・指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：杏林大学医学部附属病院、国立がん研究センター東病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：杏林大学医学部附属病院、国立がん研究センター東病院）・無）

・技術的助言の実施状況

別紙 12 参照

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

別紙 13 参照

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

2023年6月9日「医療安全・感染防御に関する研修会」

高難度、未承認、適応外 導入手続きについて

外部監査委員会報告

2024年3月18日

診療録の記載について

内部通報について

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

2023年11月20日(月)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

管理者

2024年12月9日(月) 受講予定

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医療安全管理責任者

2023年12月15日(金)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医療安全管理責任者

2025年1月17日(金) 受講予定

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医薬品安全管理責任者

2024年1月15日(月)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医薬品安全管理責任者

2024年12月9日(月) 受講予定

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医療機器管理責任者

2023年12月4日(月)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医療機器管理責任者

2025年1月17日(金) 受講予定

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2012年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(Ver. 6.0)を受審後認定

2017年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(3rdG Ver. 1.1)を受審後認定(現在継続中)

2022年6月に特定機能病院に新たに設けられた一般病院3(3rdG Ver. 2)を受審

中間的な結果報告を8月10日に日本医療機能評価機構から受理。補充的な審査を受けるべくC評価

に対する改善を行った。(C 評価項目 2.1.2 診療記録を適切に記載している)

10月に補充的な審査を受審し、12月2日付で認定を取得した。(認定期間：2022年2月3日～2027年2月2日)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2022年12月27日 病院ホームページに日本医療機能評価機構の情報提供ページリンクを掲載している。

・評価を踏まえ講じた措置

2022年

8月10日 診療録記載改善委員会で改善案を策定

8月17日 運営会議で改善案を承認

8月24日 病院機能評価準備委員会で周知、診療科長・グループ長に文書にて通知

9月7日 全職員研修会で改善案を周知

9月13日 診療連絡委員会にて改善案を周知

9月14日 臨床科長会議で周知と第一回実施の結果説明

2024年

4月30日 日本医療機能評価機構における一般病院3(3rdG Ver.2.0)の期中の確認として自己評価を提出

8月23日 日本医療機能評価機構における一般病院3(3rdG Ver.2.0)の期中の確認として実施した自己評価に対するコメント返信を受信

9月3日 日本医療機能評価機構における一般病院3(3rdG Ver.2.0)の期中の確認として実施した自己評価に対するコメントを各領域委員長および事務担当へ周知

(注) 記載時点の状況を記載すること

医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2023年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員入職時研修	2023年4月1日(土)	8:40~12:30	医師 136名 看護師 50名 医療技術員 23名 事務職員 21名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2023年4月1日(土) ~ 2023年5月6日(土)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 32名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について レジリエントヘルスケア(成功から学ぼう) 院内暴力について 報告書作成トレーニング
看護師新入職者研修会	2023年4月1日(土) ~ 2023年5月31日(水) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 50名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服取り扱い時の事故防止対策 酸素ボンベの取り扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インスリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10-12:45	研修医 62名	ヒヤリハット・アクシデント報告の意義 ヒヤリハット・アクシデント事例について 医療用麻薬の取扱いについて 患者誤認について コミュニケーションエラーについて 死亡診断書・死亡事例報告書の記載について 転倒転落防止について 医療事故調査制度について 個人情報の管理について 生体監視モニターの対応について 全職員研修会確認テスト結果について 臨床研修医リスクマネージャーによるアクシデント事例の分析
医師事務作業補助者研修会	2023年7月28日(金)	14:00~15:30	6名	医療事故防止について
リスクマネージャー研修会	2023年12月23日(土)	13:00-16:00	59名	グループワークを中心にRCA(根本原因分析)の手法を学ぶ
M&Mカンファレンス	2024年3月28日(木)	16:30-17:30	18名	複数診療科に係る事例検討
医療安全および感染対策に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2023年6月 9日(金) 2023年6月19日(月) 2023年6月22日(木) 2023年6月28日(水)	17:30-18:30 17:30-18:30 16:00-17:00 17:30-18:30	2,210名	安全管理マニュアルポケット版改訂について ヒヤリハット・アクシデント報告について 高難度/未承認/適応外 導入手続きについて [テスト実施]
医療安全に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2023年10月12日(木) 2023年10月25日(水) 2023年10月27日(金) 2023年10月30日(月)	17:30-18:30 17:30-18:30 17:00-18:00 16:00-17:00	2,141名	インフォームド・コンセント 医薬品の安全使用について 医療機器の安全使用について 医療放射線の安全使用について [テスト実施]
医療安全に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2024年2月19日(月) 2024年2月29日(木) 2024年3月 1日(金) 2024年3月 5日(火)	17:30-18:30 16:00-17:00 17:00-18:00 17:30-18:30	2,058名	2023年のヒヤリハット・アクシデント報告について 医薬品等を適応外使用する時のルール 医療ガス安全管理について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止!2023年グッドリカバリー表彰 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、テスト問題の実施、DVD配布	-	医師 20名 看護師 1名 医療技術員 15名 事務職員 4名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容に基づいたテスト問題の実施、新入職員入職時研修のDVD視聴)
医療安全e-Learning	-	-	-	(第1回:2023年7月~) RRS、緊急蘇生チーム、急変時対応、安全管理指針、安全管理体制、安全文化、ヒヤリハット・アクシデント報告、報告システム、患者影響レベル分類、患者影響レベル対応、重大アクシデント発生時の対応、FAX誤送信防止、COVID-19関連 (第2回:2023年12月~) ヒヤリハット・アクシデント報告、個人情報、災害発生時の対応、患者確認、身体抑制、生体監視モニター、コンセントの色分け、パニック値報告、インフォームドコンセント、医薬品、臨床倫理、DNAR、高難度・未承認・適応外、病理・放射線レポート、輸血 (第3回2024年2月~) ヒヤリハット・アクシデント報告、医療安全情報、死亡診断書・死体検案書、医療事故調査制度、急変時対応、緊急時口頭指示、虐待対応、転倒・転落、院内暴力対応、薬剤

院内感染対策に関する職員研修(2023年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 入職時研修	2023年4月1日(土)	8:40~12:30	医師 136 名 看護師 50 名 医療技術員 23 名 事務員 21 名	院内感染対策について (4月1日(土) 10:10 ~ 10:55)
看護師 新入職者研修会	2023年4月1日(土) 、 2023年5月31日(水)	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 50 名	感染防止対策総論 (4月3日(月) 9:40 ~ 10:10)
臨床研修医 基礎研修	2023年4月1日(土) 、 2023年5月6日(土)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 32 名	感染症対策について① (4月20日(木) 13:00 ~ 14:00) 感染症対策について② (4月20日(木) 14:10 ~ 15:10)
医療安全および 感染対策研修会 第1回 (ビデオ講習・DVD講習 含む)	2023年6月9日(金) 2023年6月19日(月) 2023年6月22日(木) 2023年6月28日(水)	17:30~18:30 17:30~18:30 16:00~17:00 17:30~18:30	2,210名	「院内感染対策要綱ポケット版の改訂点と活用術」 講師:感染制御部 看護師 冬室純子 「微生物検査の活用方法について」 講師:感染制御部 臨床検査技師 佐々木潤平
ストップ感染デー (感染対策研修会) 第2回 (ビデオ講習・DVD講習 含む)	2023年9月6日(水) 2023年10月3日(火) 2023年10月5日(木) 2023年10月20日(金)	17:30~18:30 17:30~18:30 17:00~18:00 16:00~17:00	2,139名	「ストップ感染デーについて」 講師:感染制御部 医師 松永直久 テーマ「手指衛生」 「高度救命救急センターにおけるハンドクリーン 使用量増加に対する取り組みについて」 講師:救急科医師 神田潤、高度救命救急セ ンター 看護師 下河聖実 「～手指衛生について～」 講師:循環器内科医師 片山大河、17東病棟 看護師 基愛梨 「手指衛生遵守率向上の取り組み」 講師:10西病棟 看護師 野上紗希 「整形外科と感染対策」 講師:整形外科医師 木村依音 「新型コロナウイルス感染症の現状につい 講師:感染制御部 医師 松永直久
感染対策研修会 第3回 (ビデオ講習・DVD講習 含む)	2024年1月11日(木) 2024年1月22日(月) 2024年1月23日(火) 2024年2月2日(金)	17:30~18:30 17:30~18:30 17:00~18:00 16:00~17:00	2,079名	「2023年度を振り返る」 講師:感染制御部 看護師 菊池智美 「当院における抗菌薬適正使用への取り組 みについて」 講師:感染制御部 薬剤師 山元孝俊
中途採用者	原則入職日に受講 テスト問題の実施 DVD配布		医師 20 名 看護師 1 名 医療技術員 15 名 事務員 4 名	業務開始前に、院内感染対策要綱ポケット 版の内容に基づいたテスト問題の実施。新 入職員入職時研修のDVD視聴。

【医薬品】医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2023年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員入職時研修	2023年4月1日(土)	8:40~12:30	医師 136名 看護師 50名 医療技術員 23名 事務職員 21名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2023年4月1日(土) ~ 2023年5月6日(土)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 32名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について レジリエントヘルスケア(成功から学ぼう) 院内暴力について 報告書作成トレーニング
看護師新入職者研修会	2023年4月1日(土) ~ 2023年5月31日(水) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 50名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服取り扱い時の事故防止対策 酸素ボンベの取り扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インスリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10-12:45	研修医 62名	ヒヤリハット・アクシデント報告の意義 ヒヤリハット・アクシデント事例について 医療用麻薬の取扱いについて 患者誤認について コミュニケーションエラーについて 死亡診断書・死亡事例報告書の記載について 転倒転落防止について 医療事故調査制度について 個人情報の管理について 生体監視モニターの対応について 全職員研修会確認テスト結果について 臨床研修医リスクマネージャーによるアクシデント事例の分析
医師事務作業補助者研修会	2023年7月28日(金)	14:00~15:30	6名	医療事故防止について
リスクマネージャー研修会	2023年12月23日(土)	13:00-16:00	59名	グループワークを中心にRCA(根本原因分析)の手法を学ぶ
M&Mカンファレンス	2024年3月28日(木)	16:30-17:30	18名	複数診療科に係る事例検討
医療安全および感染対策に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2023年6月 9日(金) 2023年6月19日(月) 2023年6月22日(木) 2023年6月28日(水)	17:30-18:30 17:30-18:30 16:00-17:00 17:30-18:30	2,210名	安全管理マニュアルポケット版改訂について ヒヤリハット・アクシデント報告について 高難度/未承認/適応外 導入手続きについて [テスト実施]
医療安全に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2023年10月12日(木) 2023年10月25日(水) 2023年10月27日(金) 2023年10月30日(月)	17:30-18:30 17:30-18:30 17:00-18:00 16:00-17:00	2,141名	インフォームド・コンセント 医薬品の安全使用について 医療機器の安全使用について 医療放射線の安全使用について [テスト実施]
医療安全に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2024年2月19日(月) 2024年2月29日(木) 2024年3月 1日(金) 2024年3月 5日(火)	17:30-18:30 16:00-17:00 17:00-18:00 17:30-18:30	2,058名	2023年のヒヤリハット・アクシデント報告について 医薬品等を適応外使用する時のルール 医療ガス安全管理について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止!2023年グッドリカバリー表彰 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、テスト問題の実施、DVD配布	-	医師 20名 看護師 1名 医療技術員 15名 事務職員 4名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容に基づいたテスト問題の実施、新入職員入職時研修のDVD視聴)
医療安全e-Learning	-	-		(第1回:2023年7月~) RRS、緊急蘇生チーム、急変時対応、安全管理指針、安全管理体制、安全文化、ヒヤリハット・アクシデント報告、報告システム、患者影響レベル分類、患者影響レベル対応、重大アクシデント発生時の対応、FAX誤送信防止、COVID-19関連 (第2回:2023年12月~) ヒヤリハット・アクシデント報告、個人情報、災害発生時の対応、患者確認、身体抑制、生体監視モニター、コンセントの色分け、パニック値報告、インフォームドコンセント、医薬品、臨床倫理、DNAR、高難度・未承認・適応外、病理・放射線レポート、輸血 (第3回2024年2月~) ヒヤリハット・アクシデント報告、医療安全情報、死亡診断書・死体検案書、医療事故調査制度、急変時対応、緊急時口頭指示、虐待対応、転倒・転落、院内暴力対応、薬剤

【医薬品】医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2024年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員入職時研修	2024年4月1日(月)	8:40~17:00	医師 147 名 看護師 66 名 医療技術員 19 名 事務職員 9 名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2024年4月1日(月) ~ 2024年4月13日(土)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 33 名	安全管理総論 ヒヤリハット・アクシデント報告の意義と書き方 死亡診断書の書き方 医療事故防止患者確認実習
看護師新入職者研修会	2024年4月1日(月) ~ 2024年4月22日(月) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 66 名	事故防止対策総論 指示簿の見方、サインの方法、患者認証 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服取り扱い時の事故防止対策 酸素ボンベの取り扱い 注射、点滴の管理 採血、BSチェック、検体容器 輸液ポンプ、シリンジポンプ インスリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10-12:45	研修医 62 名	医療安全を語り合う Narrative-based Patient Safety ヒヤリハット・アクシデント報告の意義 医療用麻薬の取扱いについて 臨床研修医リスクマネージャーによるアクシデント事例の分析
リスクマネージャー研修会	(未定)			
M&Mカンファレンス	(未定)			複数診療科に係る事例検討
医療安全および感染対策に関する研修会 (ビデオ講習、DVD講習含む)	2024年6月11日(火) 2024年6月26日(水) 2024年6月27日(木) 2024年7月 1日(月)	17:30-18:30 17:30-18:30 17:00-18:00 16:00-17:00	2,096 名	安全管理マニュアルポケット版改訂について ヒヤリハット・アクシデント報告について 高難度/未承認/適応外 導入手続きについて [テスト実施]
医療安全に関する研修会	2024年10月10日(木)	17:30-18:30		医薬品の安全使用について 医療機器の安全使用について 医療放射線の安全使用について 医療ガス安全管理について [テスト実施]
医療安全に関する研修会	2025年2月19日(水)	17:30-18:30		ヒヤリハット・アクシデント 医薬品の安全使用について インフォームド・コンセント レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止!2024年グッドリカバリー表彰 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、テスト問題の実施、DVD配布	-	医師 11 名 看護師 3 名 医療技術員 13 名 事務職員 3 名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容に基づいたテスト問題の実施、新入職員入職時研修のDVD視聴)
医療安全e-Learning	-	-		(第1回:2024年7月~) 医師・看護師・薬剤師:医療にかかわる安全管理のための指針、緊急蘇生チーム(コードブルー)呼び出し手順、Rapid Response System(RRS)について、医療事故等の報告方法、患者影響レベル分類、患者影響レベル別報告基準、異状死の届出の判断基準、死亡診断書(死体検案書)記載・報告のポイント、高齢者虐待・障害者虐待・DV対応、転倒・転落患者への対応 その他の職種:医療にかかわる安全管理のための指針、緊急蘇生チーム(コードブルー)呼び出し手順、Rapid Response System(RRS)について、医療事故等の報告方法、患者影響レベル分類、患者影響レベル別報告基準、急変時対応のチェックポイント、緊急時口頭指示実施フロー、異状死の届出の判断基準、死亡診断書(死体検案書)記載・報告のポイント (第2回) 医師・看護師・薬剤師:災害発生時の対応、患者相談、公益通報窓口および内部通報窓口、メンタルヘルス相談の流れ(教職員用)、病理診断レポートの確認、パニック値報告の確認、深部静脈血栓症の診断、輸血施行手順、クロスマッチ採血手順・血型との同時採血禁止、高カリウム血症に対する緊急対応 その他の職種:児童虐待初期対応、高齢者虐待・障害者虐待・DV対応、転倒・転落患者への対応、院内暴力事案等の対応、災害発生時の対応、患者相談、公益通報窓口および内部通報窓口、メンタルヘルス相談の流れ (第3回) 医師・看護師・薬剤師:血管外漏出に注意を要する主な注射薬リスト、一般病棟における内服薬・外用薬の処方指示、主な術前中止薬一覧、B型肝炎ウイルス再活性化防止対策について、当院における「ハイリスク薬」の定義、薬剤処方時の注意事項、モニター送信機の電池確認、インフォームド・コンセント、輸血拒否患者取り扱いガイドライン、臨床倫理委員会が必要なとき その他の職種:個人情報紛失・漏洩等事故発生時対応フロー、FAX誤送信の防止・対応、パニック値報告の確認、患者確認方法、医薬品・医療機器・再生医療等安全性情報報告制度、モニターのアラーム設定確認とON/OFF、モニター送信機の電池確認、インフォームド・コンセント、輸血拒否患者取り扱いガイドライン、臨床倫理委員会が必要なとき

【医療機器】医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2023年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員入職時研修	2023年4月1日(土)	8:40~12:30	医師 136名 看護師 50名 医療技術員 23名 事務職員 21名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2023年4月1日(土) ~ 2023年5月6日(土)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 32名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について レジリエントヘルスケア(成功から学ぼう) 院内暴力について 報告書作成トレーニング
看護師新入職者研修会	2023年4月1日(土) ~ 2023年5月31日(水) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 50名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服取り扱い時の事故防止対策 酸素ボンベの取り扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インスリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10-12:45	研修医 62名	ヒヤリハット・アクシデント報告の意義 ヒヤリハット・アクシデント事例について 医療用麻薬の取扱いについて 患者誤認について コミュニケーションエラーについて 死亡診断書・死亡事例報告書の記載について 転倒転落防止について 医療事故調査制度について 個人情報の管理について 生体監視モニターの対応について 全職員研修会確認テスト結果について 臨床研修医リスクマネージャーによるアクシデント事例の分析
医師事務作業補助者研修会	2023年7月28日(金)	14:00~15:30	6名	医療事故防止について
リスクマネージャー研修会	2023年12月23日(土)	13:00-16:00	59名	グループワークを中心にRCA(根本原因分析)の手法を学ぶ
M&Mカンファレンス	2024年3月28日(木)	16:30-17:30	18名	複数診療科に係る事例検討
医療安全および感染対策に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2023年6月 9日(金) 2023年6月19日(月) 2023年6月22日(木) 2023年6月28日(水)	17:30-18:30 17:30-18:30 16:00-17:00 17:30-18:30	2,210名	安全管理マニュアルポケット版改訂について ヒヤリハット・アクシデント報告について 高難度/未承認/適応外 導入手続きについて [テスト実施]
医療安全に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2023年10月12日(木) 2023年10月25日(水) 2023年10月27日(金) 2023年10月30日(月)	17:30-18:30 17:30-18:30 17:00-18:00 16:00-17:00	2,141名	インフォームド・コンセント 医薬品の安全使用について 医療機器の安全使用について 医療放射線の安全使用について [テスト実施]
医療安全に関する研修会(ビデオ講習、DVD講習含む)	2024年2月19日(月) 2024年2月29日(木) 2024年3月 1日(金) 2024年3月 5日(火)	17:30-18:30 16:00-17:00 17:00-18:00 17:30-18:30	2,058名	2023年のヒヤリハット・アクシデント報告について 医薬品等を適応外使用する時のルール 医療ガス安全管理について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止!2023年グッドリカバリー表彰 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、テスト問題の実施、DVD配布	-	医師 20名 看護師 1名 医療技術員 15名 事務職員 4名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容に基づいたテスト問題の実施、新入職員入職時研修のDVD視聴)
医療安全e-Learning	-	-		(第1回:2023年7月~) RRS、緊急蘇生チーム、急変時対応、安全管理指針、安全管理体制、安全文化、ヒヤリハット・アクシデント報告、報告システム、患者影響レベル分類、患者影響レベル対応、重大アクシデント発生時の対応、FAX誤送信防止、COVID-19関連 (第2回:2023年12月~) ヒヤリハット・アクシデント報告、個人情報、災害発生時の対応、患者確認、身体抑制、生体監視モニター、コンセントの色分け、パニック値報告、インフォームドコンセント、医薬品、臨床倫理、DNAR、高難度・未承認・適応外、病理・放射線レポート、輸血 (第3回2024年2月~) ヒヤリハット・アクシデント報告、医療安全情報、死亡診断書・死体検案書、医療事故調査制度、急変時対応、緊急時口頭指示、虐待対応、転倒・転落、院内暴力対応、薬剤

【医療機器】医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2024年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員入職時研修	2024年4月1日(月)	8:40~17:00	医師 147 名 看護師 66 名 医療技術員 19 名 事務職員 9 名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2024年4月1日(月) ~ 2024年4月13日(土)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 33 名	安全管理総論 ヒヤリハット・アクシデント報告の意義と書き方 死亡診断書の書き方 医療事故防止患者確認実習
看護師新入職者研修会	2024年4月1日(月) ~ 2024年4月22日(月) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 66 名	事故防止対策総論 指示簿の見方、サインの方法、患者認証 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服取り扱時の事故防止対策 酸素ボンベの取り扱い 注射、点滴の管理 採血、BSチェック、検体容器 輸液ポンプ、シリンジポンプ インスリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10-12:45	研修医 62 名	医療安全を語り合う Narrative-based Patient Safety ヒヤリハット・アクシデント報告の意義 医療用麻薬の取扱いについて 臨床研修医リスクマネージャーによるアクシデント事例の分析
リスクマネージャー研修会	(未定)			
M&Mカンファレンス	(未定)			複数診療科に係る事例検討
医療安全および感染対策に関する研修会 (ビデオ講習、DVD講習含む)	2024年6月11日(火) 2024年6月26日(水) 2024年6月27日(木) 2024年7月 1日(月)	17:30-18:30 17:30-18:30 17:00-18:00 16:00-17:00	2,096 名	安全管理マニュアルポケット版改訂について ヒヤリハット・アクシデント報告について 高難度/未承認/適応外 導入手続きについて [テスト実施]
医療安全に関する研修会	2024年10月10日(木)	17:30-18:30		医薬品の安全使用について 医療機器の安全使用について 医療放射線の安全使用について 医療ガス安全管理について [テスト実施]
医療安全に関する研修会	2025年2月19日(水)	17:30-18:30		ヒヤリハット・アクシデント 医薬品の安全使用について インフォームド・コンセント レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止!2024年グッドリカバリー表彰 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、テスト問題の実施、DVD配布	-	医師 11 名 看護師 3 名 医療技術員 13 名 事務職員 3 名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容に基づいたテスト問題の実施、新入職員入職時研修のDVD視聴)
医療安全e-Learning	-	-		(第1回:2024年7月~) 医師・看護師・薬剤師:医療にかかわる安全管理のための指針、緊急蘇生チーム(コードブルー)呼び出し手順、Rapid Response System(RRS)について、医療事故等の報告方法、患者影響レベル分類、患者影響レベル別報告基準、異状死の届出の判断基準、死亡診断書(死体検案書)記載・報告のポイント、高齢者虐待・障害者虐待・DV対応、転倒・転落患者への対応 その他の職種:医療にかかわる安全管理のための指針、緊急蘇生チーム(コードブルー)呼び出し手順、Rapid Response System(RRS)について、医療事故等の報告方法、患者影響レベル分類、患者影響レベル別報告基準、急変時対応のチェックポイント、緊急時口頭指示実施フロー、異状死の届出の判断基準、死亡診断書(死体検案書)記載・報告のポイント (第2回) 医師・看護師・薬剤師:災害発生時の対応、患者相談、公益通報窓口および内部通報窓口、メンタルヘルス相談の流れ(教職員用)、病理診断レポートの確認、パニック値報告の確認、深部静脈血栓症の診断、輸血施行手順、クロスマッチ採血手順・血型との同時採血禁止、高カリウム血症に対する緊急対応 その他の職種:児童虐待初期対応、高齢者虐待・障害者虐待・DV対応、転倒・転落患者への対応、院内暴力事案等の対応、災害発生時の対応、患者相談、公益通報窓口および内部通報窓口、メンタルヘルス相談の流れ (第3回) 医師・看護師・薬剤師:血管外漏出に注意を要する主な注射薬リスト、一般病棟における内服薬・外用薬の処方指示、主な術前中止薬一覧、B型肝炎ウイルス再活性化防止対策について、当院における「ハイリスク薬」の定義、薬剤処方時の注意事項、モニター送信機の電池確認、インフォームド・コンセント、輸血拒否患者取り扱いガイドライン、臨床倫理委員会が必要なとき その他の職種:個人情報紛失・漏洩等事故発生時対応フロー、FAX誤送信の防止・対応、パニック値報告の確認、患者確認方法、医薬品・医療機器・再生医療等安全性情報報告制度、モニターのアラーム設定確認とON・OFF、モニター送信機の電池確認、インフォームド・コンセント、輸血拒否患者取り扱いガイドライン、臨床倫理委員会が必要なとき

診療録等の記載内容の確認及び指導の主な内容（2024年度）

診療録の記載内容の確認

（1）量的点検

①退院時点検

点検実施者：診療情報管理士

点検方法：該当月退院分全件をチェックリストに沿って点検する（毎月）

②リアルタイム点検

点検実施者：診療情報管理士

点検項目：全科統一手術室手術記録

点検方法：手術室を利用した手術記録全件に対し量的点検を実施、未作成や不備について診療科に督促を実施（毎週）

（2）質的点検

医師・他医療職による点検

点検実施者：病棟医長・グループ長等診療科の代表医師・診療録管理責任者

看護部・薬剤部・中央検査部・中央放射線部・栄養部・リハビリテーション部・診療情報管理部

点検方法：別紙「診療録質的点検手順」のとおり

主な指導内容

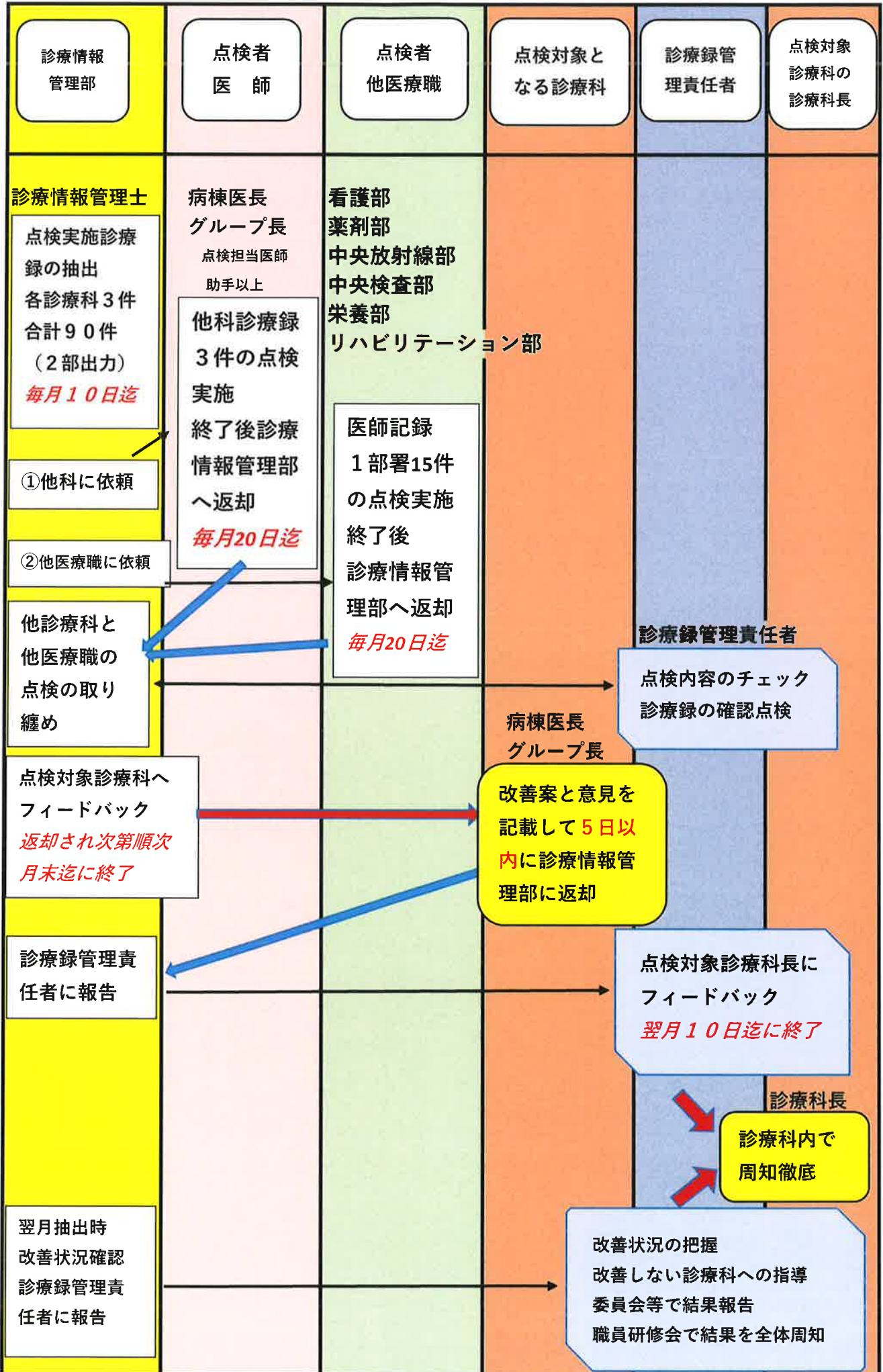
- ・入院時記載は決められたフォームで入院時に記載するよう指導
- ・入院時検査所見、入院時身体所見、アレルギーの記載内容について指導。
- ・診療の都度記載するよう指導。
- ・SOAPに記載すべき内容について指導。
- ・傷病名の整理ができていない診療録について指導。
- ・研修医に対する指導医記録について退院後コメントを記載するよう指導。
- ・研修医の記載指導に関する指導担当医師以外への指導。
- ・指導医を立てずに記載している研修医に指導医を立てるよう指導。
- ・学生カルテの承認を行うように指導。

《職員研修会》

診療録点検結果報告とともに記載の原則、入院時記載、症例カンファレンス記録について記載方法の指導を行った。

診療録記載基準の変更点について説明を行った。

診療録の記載指導に関するアンケートを実施し、その結果と当院の記載の問題点と改善策を共有した。



⑩他の特定機能病院棟の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

技術的助言

【インシデントやアクシデントの報告等の状況】

採血において、急な指示変更や採血本数なども含め、確実な検体検査と患者確認を行うためには、バーコード認証の導入が望ましいと思われる。

技術的助言の実施状況

【インシデントやアクシデントの報告等の状況】

採血におけるバーコード認証の導入は現在検討中である。他の大学病院の状況を参考に当院にとって導入が適当か判断する。

(11) 患者からの相談に適切に応じる体制の確保

①患者相談窓口の設置状況

○設置年月日 2003（平成15）年4月1日

○窓口名称 患者相談室

○相談日及び相談時間帯 診療時間内

月曜～金曜日 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

○対応職種 事務職員 4名

社会福祉士 1名

○活動状況等

②窓口の活動に関する患者等への明示

病院正面玄関インフォメーションボード、各科外来電子掲示板に「活動の趣旨・対応時間・担当責任者名・設置場所案内図」、相談室入口及びカウンター内に「活動の趣旨・対応時間・担当責任者名」を掲示している。また、入院のご案内、病院ホームページにも掲載している。

③規約の整備状況

2003年4月1日施行する

2009年5月1日改定施行する

2011年4月1日改定施行する

2013年4月1日改定施行する

2014年9月3日改訂施行する

2016年7月6日改訂施行する

2018年4月1日改定施行する

2019年6月1日改定施行する

2024年7月1日改定施行する

④相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮

- ・患者等の不安を払拭するためには、

相談者にお話をお伺いした際に対応方法についてのご意向を伺い、匿名を希望される場合はその希望に従うことをお伝えしている。また、お名前を明らかにしていただく場合も、相談したことにより不利益を被ることがないことを説明差し上げるなど心理的な不安等が残らないように対応している。

- ・職員の認識

患者本人や家族等からのご意見等については所属長を通じ各職員に対して真摯に受け止め対

応するよう指導している。また、毎月行われるリスクマネージャー会議及び安全管理委員会をはじめ病院研修会等機会ある毎に職員指導を行っている。

⑤電話、ご意見箱、インターネット相談の実施など相談窓口以外の相談の受付方法

- ・電話相談あり
- ・ご意見箱の設置あり（21ヶ所）
- ・インターネットの相談なし

⑥苦情、相談内容の共有

相談者からお伺いした苦情等を相談報告書にまとめ、該当部署の所属長及びリスクマネージャー、病院長宛に速やかに報告している。病院長宛の報告書は安全管理部、総務課長、事務長、安全管理担当副院長補佐、診療担当副院長、安全管理担当副院長を経て病院長に届けられる。該当部署については、所属長宛てに報告すると同時にリスクマネージャーを通じ該当職員に報告し、早急に対応を図るよう努めている。

各部署は、対応が済み次第その対応方法及び結果等を相談室経由で院長宛に報告し、相談内容によっては、該当部署から安全管理部会での検討が依頼されその指示に従い対応している。

⑦患者等へのセカンドオピニオン選択肢の推進 有 及び受入 有

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許を有している者 2. 医療安全管理業務の経験や、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有し、医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 3. 当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者 4. 帝京大学の建学の精神を深く理解し、当院の理念である「患者そして家族と共にあゆむ医療」を確実に実践できる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 <p>2022年度 病院長選考委員会にて、任期を2023年4月1日～2026年3月31日と決定しており、2023年度の選考会は行っていない。</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の間係
別紙14参照				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☑・無		
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営等</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 臨床科長会議等を通じてすべての部署へ説明している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☑）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☑）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
冲永寛子		医師	常務理事
澤村成史	○	医師	病院長
深川剛生		医師	診療担当副院長
上妻 謙		医師	安全管理担当副院長
山本貴嗣		医師	総務担当副院長
佐野圭二		医師	診療担当副院長補佐
安田篤史		医師	安全管理担当副院長補佐・医療機器安全管理担当責任者
多田弥生		医師	総務担当副院長補佐
土谷明子		看護師	看護部長
安野伸浩		薬剤師	薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者
内山喜代志		放射線技師	中央放射線部課長
稲垣宏治		事務職員	事務長
目黒洋子		事務職員	総務課長
小久保真		事務職員	医事課長
和久正志		事務職員	相談役
河野博隆〈オブザーバー〉		医師	医学部長
村松直樹〈オブザーバー〉		事務職員	企画・管理局長
山本武司〈オブザーバー〉		事務職員	法人事務局長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
別紙 15 参照（帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則）

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
別紙 15 参照（帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 院内研修として、マネジメントに関する職員研修会を計画的に実施している。
 - ・ 外部研修にも積極的に参加している（特定機能病院管理者研修、医療安全管理者養成講習会など）。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	☑・無				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 管理者をはじめとして、医療安全管理責任者、安全管理部長、安全管理委員会委員長、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、インフォームドコンセント管理責任者、診療録管理責任者がそれぞれの職務の実績について委員に報告する。また、委員は現場を巡視し、自ら確認を行う。委員長は監査結果をまとめ改善すべき点があれば、開設者および管理者に対し、是正措置を講ずるよう意見を表明する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☑・無） ・ 委員名簿の公表の有無（☑・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（☑・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・☒） ・ 公表の方法： 病院ホームページに公表 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国保 組合議員 脳神経内科医師	○	・ 医療に係る安全管理に関する識見を有する者 ・ 脳神経内科医師として医療に造詣が深いため	有・無	1
秦 奈峰子	太田・佐藤法律 事務所 弁護士・医師		・ 医療に係る安全管理及び法律に関する識見を有する者 ・ 医師と弁護士の資格を持ち医療と法律双方を理解されているため	有・無	1
橋本 恵正	当院の患者代表		・ 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 ・ 当院に通院歴のある患者を代表して	有・無	2
河野 博隆	帝京大学医学部 長		・ 当院での臨床経験がある中立的な評価ができる立場にある	☑・無	3

			者 ・医学部を統括する 者として		
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

法人本部内に内部監査室、企画・管理局を設置し、内部監査室が内部監査プロセスを通じモニタリングすると共に、法人の事務局長、企画・管理局長が病院運営会議にオブザーバー参加することで、定期的に病院運営状況を確認できるようにしている。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <div style="margin-left: 20px;">別紙 16 参照</div> ・ 会議体の実施状況（ 年 9 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・<input checked="" type="radio"/> ）（ 年 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="radio"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (・ 無)
- ・ 通報件数 (年0件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (・ 無)
- ・ 周知の方法
 - ・ 全職員にポケットマニュアルを配布し周知
 - ・ 電子カルテ掲載
 - ・ 新入職員オリエンテーション、全職員研修会での周知

帝京大学医学部附属病院 病院長選考委員会委員名簿

委員	氏名	現職	経歴	選定理由等
委員長	冲永 寛子	常務理事	帝京大学医師会長、 副学長を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学理事会を代表する者として委員に選出。 理事長が委員長に指名。
学内委員	河野 博隆	医学部長	整形外科主任教授、 診療担当副院長を経て 現職	「病院長選考規程」に基づき、 医学部を統括する者として委員に 選出。
〃	内山 喜代志	中央放射線部 課長	副技師長、技師長補佐 を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 メディカルスタッフを代表する者 として委員に選出。
学外委員	寺尾 壽夫	東京都医師国保組合 議員	特別養護老人ホーム寿 栄園施設長、千代田区 嘱託医を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学医学部附属病院監査委員 会委員長として学外委員に選出。
〃	青木 豊	公益財団法人 労働問題リサーチセ ンター 理事長	厚生労働省労働基準局 長、中央職業能力開発 協会理事長を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 組織のマネジメントに豊富な経験 を有する者として学外委員に選 出。

帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則

(目的)

第1条 この細則は、帝京大学医学部附属病院(以下、「当院」という。)における医療提供の責任者である病院長が当院の管理運営に必要な指導力を発揮して医療安全等を確保するために、病院長が有する権限を明確化することを目的とする。また、病院長をサポートする副院長等の役割を明確化し、当院医療体制の質の向上に寄与することを目的とする。

(病院長の役割)

第2条 病院長は、理事長から権限移譲を受け、以下の職務を執り行う。

- (1) 安全管理部、感染制御部など、院内最重要部門を直属の組織として管理する。
- (2) 副院長、副院長補佐を統括して病院運営を行う。
- (3) 病院内各種委員会の委員長を任命する。
- (4) 医学部准教授以上の臨床系教員の採用・昇任等に、病院長の立場で審議に加わる。
- (5) 病院の管理運営責任者として、医療機器購入の必要性や機器選定の検討を行う。

(副院長の役割)

第3条 副院長は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。

- (1) 病院長の業務を補佐する。
- (2) 診療部門、安全管理部門、総務部門の3部門を分掌する。
- (3) 診療部門の担当副院長は、患者診療と患者支援を担当する。
- (4) 安全管理部門の担当副院長は、医療安全、倫理および施設設備管理を担当する。
- (5) 総務部門の担当副院長は、職員管理、教育研修および情報管理を担当する。
- (6) 病院長および副院長補佐と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
- (7) 副院長補佐と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(副院長補佐の役割)

第4条 副院長補佐は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。

- (1) それぞれの担当副院長の業務を補佐する。
- (2) 病院長および3名の副院長と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
- (3) 副院長と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(病院長、副院長の職務代行)

第5条 副院長は病院長が不在に当たってはその業務を代行する。

副院長補佐は副院長が不在に当たってはその業務を代行する。

(副院長・副院長補佐の選任)

第6条 副院長、副院長補佐は理事長が必要と認めたとき、病院長と協議して理事長が選任する。

(雑則)

第7条 この細則の改廃は、理事長の承認をもって決定する。

(附則)

この細則は、2018年8月15日から施行する。

この細則は、2022年4月1日から施行する。

【改訂履歴】

改訂日付	改訂箇所	改訂内容	改訂者
2022/4/1	第5条。第6条	新規追加	事務長

学校法人 帝京大学寄附行為

第一章 総 則

- (名 称)
 第 一 条 この法人は、学校法人帝京大学と称する。
- (事務所)
 第 二 条 この法人は、事務所を東京都板橋区加賀二丁目1 1番1号に置く。

第二章 目的及び設置する学校

- (目 的)
 第 三 条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、私立学校を設置し、建学の精神に基づいた教育を行い、有為な人材を育成することを目的とする。

(設置する学校)

- 第 四 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。
- | | |
|------------|---|
| 一 帝京大学 大学院 | 医学研究科 文学研究科 薬学研究科 経済学研究科 法学研究科 理工学研究科 理工学研究科(通信教育課程) 医療技術学研究科 教職研究科 公衆衛生学研究科 外国語研究科 保健学研究科 総合データ応用プログラム 医療データサイエンスプログラム |
| 文学部 | 日本文化学科 史学科 社会学科 心理学科 |
| 外国語学部 | 外国語学科 国際日本学科 |
| 教育学部 | 教育文化学科 初等教育学科 |
| 経済学部 | 経済学科 経営学科 観光経営学科 地域経済学科 国際経済学科 |
| 法学部 | 法律学科 政治学科 |
| 医学部 | 医学科 |
| 薬学部 | 薬学科 |
| 理工学部 | 機械・精密システム工学科 航空宇宙工学科 情報電子工学科 バイオサイエンス学科 情報科学科通信教育課程 |
| 医療技術学部 | 視能矯正学科 看護学科 診療放射線学科 臨床検査学科 スポーツ医療学科 柔道整復学科 |
| 福岡医療技術学部 | 理学療法学科 作業療法学科 看護学科 診療放射線学科 医療技術学科 |
| 二 帝京大学短期大学 | 人間文化学科 現代ビジネス学科 |

- 三 帝京大学高等学校 普通科（全日制課程）
- 四 帝京大学可児高等学校 普通科（全日制課程）
- 五 帝京第三高等学校 普通科（全日制課程）
- 六 帝京大学中学校
- 七 帝京大学可児中学校
- 八 帝京大学小学校
- 九 帝京大学可児小学校
- 一〇 帝京幼稚園
- 一一 帝京大学幼稚園
- 一二 帝京高等看護学院（医療専門課程）
- 一三 帝京山梨看護専門学校（医療専門課程）

第三章 役員及び理事会

（役員）

第五 条 この法人に、次の役員を置く。

- 一 理事 七人
 - 二 監事 二人
- 2 理事のうち一人を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上の議決を要する。
- 3 理事（理事長を除く。）のうち一人を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。常務理事の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上の議決を要する。

（理事の選任）

第六 条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 帝京大学の学長
 - 二 帝京大学の副学長、学部長、短期大学の学長のうちから理事会において選任した者 二人
 - 三 評議員のうちから評議員会において選任した者 三人
 - 四 学識経験者のうちから理事会において選任した者 一人
- 2 前項第一号から第三号までの理事は、学長、副学長、学部長、短期大学の学長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

（監事の選任及び職務）

第七 条 監事は、この法人の理事、職員（学長（校長）、教員その他の職員を含む。以下同じ。）、評議員又は役員の配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

- 2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任するものとする。
- 3 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 この法人の業務を監査すること
- 二 この法人の財産の状況を監査すること
- 三 この法人の理事の業務執行の状況を監査すること
- 四 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会及び評議員会に提出すること
- 五 第一号から第三号までの規定による監査の結果、この法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること
- 六 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会及び評議員会の招集を請求すること
- 七 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、理事会に出席して意見を述べること
- 4 前項第六号の請求があった日から五日以内に、その請求があった日から二週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。
- 5 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(役員任期)

- 第 八 条 役員（第六条第1項第一号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。）の任期は、四年とする。ただし、補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 役員は、再任されることができる。
 - 3 役員は、任期満了のあとでも後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務（理事長又は常務理事にあっては、その職務を含む。）を行う。

(役員補充)

- 第 九 条 理事又は監事のうち、その定数の五分の一をこえる者が欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

(役員解任及び退任)

- 第 十 条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の四分の三以上出席した理事会において、理事総数の四分の三以上の議決及び評議員会において評議員総数の三分の二以上の議決により、これを解任することができる。
- 一 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき
 - 二 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - 三 職務上の義務に著しく違反したとき

- 四 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき
- 2 役員は次の事由によって退任する。
 - 一 任期の満了
 - 二 辞任
 - 三 死亡
- 四 私立学校法第三十八条第8項第一号又は第二号に掲げる事由に該当するに至ったとき

(理事会)

- 第 十 一 条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。
- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の遂行を監督する。
 - 3 理事会は、理事長が招集する。
 - 4 理事長は、理事総数の三分の二以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から七日以内に、これを招集しなければならない。
 - 5 理事会を招集するには、各理事及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面又は電磁的方法により通知しなければならない。
 - 6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。
 - 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
 - 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。
 - 9 第七条第4項及び前項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
 - 10 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第13項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。
 - 11 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思表示をした者は、出席者とみなす。
 - 12 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めのある場合を除くほか、出席理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 13 理事会の決議について直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(業務の決定の委任)

第十二条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であつて、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(理事長及び常務理事の職務)

第十三条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 常務理事は、理事長の業務を補佐し、この法人の全ての業務について代表する。

(理事の代表権の制限)

第十四条 理事長及び常務理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第十五条 理事長に事故あるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において指名された理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(議事録)

第十六条 議長は、理事会の開催の場所（当該場所に存しない役員が理事会に出席をした場合における当該出席の方法を含む。）及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、出席理事及び監事が署名（電磁的記録により作成される議事録にあつては、電子署名。以下同じ。）若しくは記名押印し、又は議長並びに出席理事のうちから互選された理事二人以上及び出席監事が署名し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

3 利益相反取引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録に記載しなければならない。

第四章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第十七条 この法人に、評議員会を置く。

2 評議員会は、十五人の評議員をもって組織する。

3 評議員会は、理事長が招集する。

4 理事長は、評議員総数の三分の一以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあつた日から二十日以内に、これを招集しなければならない。

5 評議員会を招集するには、各評議員及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面又は電磁的方法により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任す

る。

- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決することができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 前項の場合において、議長は、評議員として議決に加わることができない。
- 12 評議員会の決議について直接の利害関係を有する評議員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

- 第十八条 第十六条第1項の規定は、評議員会の議事録の作成について準用する。
- 2 議事録には、出席評議員及び監事が署名若しくは記名押印し、又は議長並びに出席評議員のうちから互選された評議員二人以上及び出席監事が署名し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

(諮問事項)

- 第十九条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。
- 一 予算及び事業計画
 - 二 事業に関する中期的な計画
 - 三 借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
 - 四 役員に対する報酬等（報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。）の支給の基準
 - 五 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
 - 六 寄附行為の変更
 - 七 合併
 - 八 目的たる事業の成功の不能による解散
 - 九 寄附金品の募集に関する事項
 - 十 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

- 第二十条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

- 第二十一条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。
- 一 この法人の職員（この法人の設置する学校の教員及び事務職員を含む。）で理事会において推せんされた者のうちから、評議員会において選任した者

五人

- 二 この法人の設置する学校を卒業した者で年齢二十五年以上のもののうちから、理事会において選任した者 一人
 - 三 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 四人
 - 四 この法人に功労ありたる者のうちから、理事会において選任した者 五人
- 2 前項第一号に規定する評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

(任 期)

- 第二十二條 評議員の任期は、四年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 評議員は、再任されることができる。
 - 3 評議員は、任期満了の後でも後任の評議員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(評議員の解任及び退任)

- 第二十三條 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の三分の二以上の議決により、これを解任することができる。
- 一 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - 二 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき
- 2 評議員は次の事由によって退任する。
- 一 任期の満了
 - 二 辞任
 - 三 死亡

第五章 資産及び会計

(資 産)

- 第二十四條 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

- 第二十五條 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産とする。
- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入される財産とする。
 - 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入される財産とする。
 - 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第二十六条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由のあるときには、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第二十七条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第二十八条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第二十九条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算、事業計画及び事業に関する中期的な計画)

第三十条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

- 2 この法人の事業に関する中期的な計画は、五年以上十年以内において理事会で定める期間ごとに、理事長が編成し、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第三十一条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席理事の三分の二以上の議決がなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

(決算及び実績の報告)

第三十二条 この法人の決算は、毎会計年度終了後二月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

- 2 理事長は、毎会計年度終了後二月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

第三十三条 この法人は、毎会計年度終了後二月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿（理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。）を作成しなければならない。

- 2 この法人は、前項の書類、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を事務所に備えて置き、請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。
- 3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について同項の請求があ

った場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除いて、同項の閲覧をさせることができる。

(情報の公表)

- 第三十四条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。
- 一 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届出をしたとき 寄附行為の内容
 - 二 監査報告書を作成したとき 当該監査報告書の内容
 - 三 財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿（個人の住所に係る記載の部分を除く。）を作成したとき これらの書類の内容
 - 四 役員に対する報酬等の支給の基準を定めたとき 当該報酬等の支給の基準

(役員報酬)

- 第三十五条 役員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(資産総額の変更登記)

- 第三十六条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後三月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

- 第三十七条 この法人の会計年度は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わるものとする。

第六章 解散及び合併

(解散)

- 第三十八条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。
- 一 理事会における理事総数の三分の二以上の議決及び評議員会の議決
 - 二 この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席理事の三分の二以上の議決
 - 三 合併
 - 四 破産
 - 五 文部科学大臣の解散命令
- 2 前項第一号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を、同項第二号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

- 第三十九条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において出席理事の三分の二以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人に帰属する。

(合併)

第四十条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第七章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第四十一条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

- 2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

第八章 補 則

(責任の免除)

第四十二条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

(責任限定契約)

第四十三条 理事（理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金一百万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

(書類及び帳簿の備付け)

第四十四条 この法人は、第三十三条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に事務所に備えて置かなければならない。

- 一 役員及び評議員の履歴書
- 二 収入及び支出に関する帳簿及び証ひよう書類
- 三 その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第四十五条 この法人の公告は、学校法人帝京大学の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第四十六条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

- 一、この寄附行為は昭和二十六年三月三十日から施行する。
- 二、この法人の設立当初の役員は次のとおりとする。

理事（理事長）	冲 永 荘 兵 衛
理 事	冲 永 荘 一
理 事	尾 中 勝 也
理 事	藤 原 澄 雄
理 事	忠 石 弘 治
監 事	三 宅 正 太 郎
監 事	三 宅 清 子

附 則

この寄附行為は昭和三十四年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十六年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十七年二月八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十八年三月十四日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十年三月二十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十一年一月二十五日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年二月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年三月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十五年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十六年三月三十一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十八年三月二十八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十二年一月十日から施行する。

附 則

- この寄附行為は昭和五十二年三月三十日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十四年三月三十日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十四年四月一日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十六年三月二十六日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十七年三月十七日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十八年三月七日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十八年三月二十四日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十八年十二月二十二日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和五十九年三月一日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和六十年十二月二十五日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和六十二年二月三日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和六十二年四月一日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和六十二年十二月二十三日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和六十三年一月十三日から施行する。
附 則
- この寄附行為は昭和六十三年十二月二十二日から施行する。
附 則
- この寄附行為は平成元年三月十三日から施行する。
附 則
- この寄附行為は平成六年四月一日から施行する。
附 則
- この寄附行為は平成九年四月一日から施行する。
附 則
- この寄附行為は平成十年四月一日から施行する。
附 則
- この寄附行為は平成十一年四月一日から施行する。
附 則

附 則

この寄附行為は平成十二年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十三年四月一日から施行する。

(帝京大学福岡短期大学の経営情報学科の存続に関する経過措置)

帝京大学福岡短期大学の経営情報学科は、改正後の寄附行為第四条第三号の規定にかかわらず平成十三年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月五日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月十三日から施行する。

附 則

平成十五年十一月二十七日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則

平成十六年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

附 則

平成十七年三月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

(帝京大学文学部日本アジア言語文化学科の存続に関する経過措置)

帝京大学文学部日本アジア言語文化学科は、改正後の寄附行為第四条第一号の規定にかかわらず平成十七年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、理事会承認の日（平成十七年十二月四日）から施行する。

附 則

一、この寄附行為は文部科学大臣の認可を受けた日（平成十八年三月十日）から施行する。

二、この寄附行為による改正後の役員及び評議員の任期の規定は、この寄附行為改正後新たに選任された役員及び評議員から適用し、この寄附行為改正前からの役員及び評議員については、なお従前の例による。

附 則

平成十八年一月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十八年四月一

日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十八年四月一日から施行する。

(帝京大学経済学部環境ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学経済学部環境ビジネス学科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

(帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十八年六月十四日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十八年十一月三十日）から施行する。

附 則

平成十八年十一月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十年三月二十一日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十年十一月十四日）から施行する。

附 則

平成二十年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十一年四月一日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十二年四月一日から施行する。

附 則

平成二十二年十月二十九日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。

- 附 則
この寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十三年六月十八日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十三年十一月三十日）から施行する。
- 附 則
平成二十四年一月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十四年五月二十七日から施行する。
- 附 則
平成二十四年十一月二十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十五年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十五年十二月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十六年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十六年六月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十七年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成三十年一月二十四日）から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成三十年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成三十年六月一日から施行する。
- 附 則
令和二（2020）年三月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和二（2020）年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、令和二（2020）年四月一日から施行する。
- 附 則
令和三（2021）年十一月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和四

(2022)年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、令和四(2022)年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(令和四(2022)年六月二十九日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、令和五(2023)年四月一日から施行する。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>○ホームページ・広報誌 各診療科の紹介や診療内容、特色、外来診療担当表等、患者に対し分かりやすく適切に表示している。</p> <p>○その他 各診療科、看護部等で地域住民や患者に対し、市民公開講座や体験講座等を実施している。(糖尿病デー、がん情報サロン等)</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>○ER及び外傷センター ERは1次から2次までの疾患患者に対応し、その内外傷患者は外傷センターの医師が対応している。また、同じフロアに3次救急に対応する救命救急センターが隣接しているので、救命救急センター・ER・外傷センターの連携も緊密になっている。 全診療科に支援体制があり、24時間体制で該当科にコンサルト可能である。</p> <p>○循環器センター 循環器内科、心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。カテーテルによる大動脈弁に対する人工弁の植え込みも可能であるが、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科によるハートチームを形成し更なる連携体制を整えている。</p> <p>○静脈瘤センター 皮膚科・循環器内科・心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。静脈瘤の有無や程度を超音波で検査し、現状の評価と適切な治療の提案を行っている。</p> <p>○スポーツ外傷・関節鏡センター 帝京大学スポーツ医科学センターとの連携や各関節の専門医・リハビリ医とも協力し、スポーツ活動の受傷前レベルへの早期復帰のため診療を行っている。</p> <p>○周術期管理センター 外科系医師、看護師、麻酔科医師、コンサルト先診療科、歯科口腔外科、薬剤部、栄養部、リハビリテーション部、ME部、事務部、医療システム部などがそれぞれの専門分野を生かし、患者家族が周術期を乗り切るためのベストな環境を提供している。</p> <p>○その他 集中治療部(GICU)や帝京がんセンター等も複数の診療科と連携体制がある。</p> <p>上記以外の専門診療センター</p>	